

さめシャーク

国木田先輩 A S M R 台本

国木田先輩ASMR作品

▼トラック 01

文芸部の部室で向かい合わせに座る国木田さんと泉くん。

ノートPCのキーボードを叩いている泉くん。快調というよりは途切れ途切れだが作業に集中している。

国木田さんはノートPCを開いておらず、文庫本を読んでいる状態。

両者の距離及び位置関係は同人誌参照。学校の机を2×2で並べている。

季節は冬。明確に言及しないが、周辺環境は冬を想起させるものを。

↓が基本的な位置関係と状況

■ 15

動きのない状態からのスタートは若干イメージしづらいので、国木田さんが部室に入ってくるところから開始する。

SE:: 泉くんの右下に小型のセラミックファンヒーターを設置。その作動音。ずっと垂れ流していると邪魔なので、いずれフェードアウトさせる。

SE:: 泉くんがキーボードを叩く音。ゆっくり且つ途切れ途切れ。

SF:: 泉くんの手が止まる。若干の間。再開してすぐくらいに国木田さん入室。入室したらまた手が止まる。

SE:: 文芸部部室のドアが静かに開かれる音。一般的な引き戸タイプ。

SE:: 入室してドアを閉める。

泉くんが作業中なので挨拶は平淡に。小さめでフラット。語尾に伸ばし棒つけてますが、あまり意識しないでください。ビタツと切りたくないイメージです。

■ 15

「泉くん、お疲れさまー」

KU_0001
【国木田】

KU_0002

【国木田】

SE: 国木田さんが近づいてくる足音。

「早いんだね。ヒーターつけてくれててありがとう」

KU_0003

【国木田】

「あつ、手は止めなくていいからね。そのままそのまま」

そこに至るまでゆっくりと泉くんに近づいていく。

■
7

KU_0004

【国木田】

「今日は冷えるねー。少しあたたまらせてもらうね」

泉くんの足元にあるヒーターの前にしゃがみこむ国木田さん

SE: ヒーターの位置を調整し、自分に向ける

SE: 手を擦り合わせながらヒーターの温風に手をかざす。

KU_0005

【国木田】

「あったかい……」

KU_0006

【国木田】

「どうしたの、こっち見て？」

「集中切れちゃった？ ごめんね、いいところを邪魔しちゃって。私のことは気にせず続けて」

立ち上がり、移動する国木田さん。泉くんの向かいの席に向かう。

SE: 国木田さんの足音。

■ 9

SE: 持っていた鞆をひとまず机の上に置く。

SE: コートを脱ぎ、自分の席の隣の椅子にかける国木田さん

SE: 椅子を引き、座る。

SE: 鞆を開け、ノートPCと文庫本を取り出す。ノートPCは備品ではなく私物。

「私は本読んでるから。泉くんは続きをどうぞ」

KU_0008

【国木田】

SE: 軽く椅子の位置調整をする音。姿勢を正しているイメージ。

SE: 文庫本を開き、読み始める。以降、定期的にページをめくる音を。

SE: 泉くんも作業再開。若干の間を取ってから、静かにキーを叩きはじめる。

静かな時間。会話なしでキーボードとページめくりの音をで間を作る。

泉くんの邪魔をしないようにかなりの小声で。ぽつりと呟く。

KU_0009

【国木田】

「あ、この表現いいかも」

SE: 泉くんの手が止まる

SE: メモ帳を広げ、ボールペンで書き写していく。確かに淀みない動き。

メモを終え、小声で満足そう

KU_0010
【国木田】

「うん」

SE: 再びページをめくる国木田さん。追いかけるように泉くんもキーを打ち始める。打鍵はかなりゆっくり且つ途切れ途切れ

KU_0011

【国木田】

SE: 少しして国木田さんの手が止まる。文庫本を閉じ、机に置く。

この状態で少しの間を。本から泉くんに視線を移し、じっと見守っている。

SE: 泉くんのキーの音が止まる

かなり遠慮した小声の呼びかけ

「泉くん」

返事はない。泉くんの手も止まったまま、画面をじっと見ている様子。

前回よりもちよっぱりボリュームアップ。まだ小声の範疇。

KU_0012

【国木田】

「おい……泉くん」

ボリュームを落としてぼつりと呟く

KU_0013

【国木田】

「聞こえてないか」

静かに立ち上がり、泉くんのそばに移動する国木田さん

SE: なるべく音を出さないように配慮した椅子の音

■ 9 ← 1 6 ← 1 5 ← 6

泉くんの右斜め後ろまで静かに移動する国木田さん。

泉くんの右耳元で囁く。あまりねっとりとさせずに、軽い耳打ちくらいのニュアンス

KU_0014
【国木田】

「調子はどう？」

いきなり声をかけられてびっくりする泉くん。

SE:驚いて椅子をガタツとさせる。

驚いた泉くんに配慮して少しだけ距離を取る。後ろっぽさをなくし、右横に。

■
7

KU_0015
【国木田】

「驚かせちゃった？」

KU_0016
【国木田】

「ごめんね、でも、なんだか詰まってるみたいだったから……」

KU_0017
【国木田】

「よかったら、見てあげようか？」

SE:ノートPCを急いで閉じる泉くん

KU_0018
【国木田】

「……もしかして見られなくなかった、とか？」

KU_0019
【国木田】

「ううん、気にしないで。途中の原稿ってなかなか見せづらいよね」

KU_0020
【国木田】

「先輩として相談に乗ってあげられたらって思っただけなんだけど……」

KU_0021

【国木田】

「だから、相談したくなったらいつでも声かけてね。本当に煮詰まるまでは、自分の力で何とかした方がいいのは確かだから、頑張ってる」

SE: ノートPCを開き、画面を国木田さんに向ける

KU_0022

【国木田】

「……見ていいの？ 嫌なら無理しなくてもいいんだよ」

KU_0023

【国木田】

「泉くんがいいなら、見せてもらうね」

■ 6

PCの画面と一緒に覗き込むような位置に移動。泉くんの右斜め後ろで、かなり近い。

KU_0024

【国木田】

「どれどれ……」

KU_0025

【国木田】

「あ、これって……前に送ってくれたファイル……じゃないよね。もしかして続き？」

KU_0026

【国木田】

「そっか……書いてくれてたんだ……うん、なんだか嬉しいな」

そこで更に接近。泉くんに覆い被さる感じ。

通常時の国木田さんは、えっち関係の言葉は恥ずかしがって少し言い淀むイメージ

KU_0027

【国木田】

「官能小説……なら……書いてる途中のは見せづらくて当然だよね」

KU_0028

【国木田】

「あつ、もしかして文芸部とは関係ない創作だからって遠慮してるの？
そういうのは気にしなくていいんだよ。文集を作るのはまだ先なんだし」

KU_0029

【国木田】

「まあ……えっちな文章書いてるって知られたら、やりづらくなる気持ちはわかるけどね……」

距離を戻す

■
7

KU_0030

【国木田】

「とにかく。いろんな文章を書いてみるのは文章力向上に繋がるから、いいことだと思うよ。特にそういうジャンルだと表現力が重要だから、絶対泉くんのためになる」

KU_0031

【国木田】

「この前読ませてもらった作品も……。泉くんのお持ちはすごく伝わってきたけど、作品として見れば、まだまだこれからだなって思うから」

KU_0032

【国木田】

「だから今書いてる続編？ かどうかはわからないけど、次回作はもっといいものになっていて欲しいなって」

KU_0033

【国木田】

「同じジャンルの小説を書く同志として、ね」

KU_0034

【国木田】

「そうかー……ふふっ、泉くんもう、隠れてこういうの書いてちゃう仲間なんだよね。これからも一緒に切磋琢磨して、素敵な作品に仕上げていこうね」

KU_0035

【国木田】

「私の次回作も……また泉くんに読んでもらいたいしね」

若干の沈黙で間を取る。

KU_0036

【国木田】

「ねえ、泉くん」

そっと背中から抱きつく。泉くんの左肩に頭を乗せて、左耳に囁く

■ 5
← 3

KU_0037

【国木田】

「ありがとう」

KU_0038

【国木田】

「すごく、嬉しかった」

KU_0039

【国木田】

「これはお礼ね」

泉くんの左耳にキス

KU_0040

【国木田】

「ちゅっ」

キスを終えたら身体を離す

KU_0041

【国木田】

電気ケトルのある方へゆっくり歩いて行く。位置は泉くんから見て窓際前方。10と11の間。

■ 5

「コーヒー淹れるね」

■ 5 ← 1 2 ← 1 1 ← 1 0 と 1 1 の間

SE:: カップをふたつ用意する。机に置く音

KU_0042
【国木田】

「今日は寒いから……あつあつのコーヒーで、あったまろう」

SE:: 電気ケトルのスイッチを入れる。水は既に入ってたことにしておく。

KU_0043

【国木田】

「そうしたら、きっといいアイデアが浮かぶんじゃないかな」

SE:: インスタントコーヒーのボトルを置き、蓋を開ける

SE:: スプーンでコーヒーを掬い、カップに入れる

SE:: 電気ケトルが沸き始める音。沸騰までは遠いけど、音はしている。

フェードアウトしてこのトラックを終える

どのあたりで効果音を切るかは要相談。完全になしというのもありかも。

.. - - - - -

	▼トラック 02
	時間経過して数日後。ざっくりと3日後くらいを想定。 尚者とも文芸部の部室にいて、作業中。それぞれノートPCを開き、キーボードを叩いている。
	■ 9
SE: 泉くんと国木田さんのPC操作音。泉くんは途切れ途切れでゆっくり。 国木田さんは軽快。	
国木田さんが手を止めて一息つく。それに合わせて泉くんの手も止まる。	
「ふう〜……」	
そこは独り言。小さく。	
「ん、いい感じ」	
顔を上げると、泉くんが見ていることに気付く	
「泉くん？ どうしたの、手が止まってるよ」	
「部室だと集中できない？ ならほかの場所で作業してもらっても構わないけど」	
「……たまたま集中が途切れちゃった感じかな。まあ、そういう時もあるよね」	

KU_0044

【国木田】

KU_0045

【国木田】

KU_0046

【国木田】

KU_0047

【国木田】

KU_0048

【国木田】

KU_0049

【国木田】

「よかったら、私の作業中のテキスト、見てみる？ なにかのヒントになるかも」

KU_0050

【国木田】

「うん、来て来て。まだ途中なんだけど、いい表現を思いついたから」

泉くんが立ち上がり、国木田さんの席に向かう。

SE: 泉くんが立ち上がる際の椅子の音

■
8

最終的に泉くんは国木田さんの左斜め後ろに陣取る

SE: 国木田さんが軽くズレて場所を空けてくれる。その時の椅子の音。

KU_0051

【国木田】

「どうぞ、泉くん。ほら、ここなんだけど……」

KU_0052

【国木田】

「泉くん、ここ数日はすごく頑張ってたよね。悩みながらも、必死になって物語を紡いでた」

KU_0053

【国木田】

「わかるよ、ずっと見てたから」

KU_0054

【国木田】

「私も先輩だし、うまくやれてるかなって、気になっちゃって。だから泉くんのこと、注意深く観察してたんだよ」

KU_0055
【国木田】

「その結果がこれ……なんだけど……」

SE: ノートPCを軽く泉くんの方に押しやる

泉くんが画面を覗き込む体勢に。結果的に国木田さんにかなり接近する。

■
7

KU_0056

【国木田】

「泉くんがキーを打つ手の甲とか……男らしいなって、それで……」

KU_0057

【国木田】

「それから、首筋の……シャツからちよっと見える鎖骨のどこ、とかね……」

KU_0058

【国木田】

「そういう何気ないところの……魅力っていうのかな……かなり参考になるんだよ。文章表現も大事だけど、よく対象を観察して、自分の中に落とし込んで、そこで感じたものを言葉にしていくの」

KU_0059

【国木田】

「今の泉くんにはそういうのが必要なんじゃないかな。ずうーっとPCの画面とにらめっこしてても、新しいアイデアはなかなか生まれないと思うから」

国木田さんが更に接近。泉くんの右耳元で囁く

KU_0060

【国木田】

「私もね……詰まったときは見てるよ、泉くんのこと」

KU_0061

【国木田】

「えっちな目で……見てる」

KU_0062

【国木田】

「ちゅっ」

KU_0063

【国木田】

「耳、もね……見方を変えれば、性的な魅力に溢れてるんだよ……?。」

KU_0064

【国木田】

「泉くんの耳、すごくえっち……かわいくて、食べたくなっちゃう」

泉くんの耳を舐めたり吸ったり。音は出るけど激しさはなくソフト。

KU_0065

【国木田】

「ぺろっ……んちゅ……ちゅ……んんっ……ちゅ!」

KU_0066

【国木田】

「ぞくぞくってした? ここだって、気持ちいいでしょ」

KU_0067

【国木田】

「泉くんなら知ってると思うけど……性器だけが、性欲をかき立てるわけじゃないってこと……覚えておいてね……」

KU_0068

【国木田】

「耳だけじゃなく、他のいろんな場所も……大好きだから……そういう好きをたくさん詰め込んだ作品にできたらいいなって」

KU_0069

【国木田】

「泉くんの官能小説も、いっぱい好きを見せてくれたら嬉しい」

「さめ、やや感情込めて」

KU_0070

【国木田】

「直接言えないことだって……文章でなら出せるから……」

二拍間を取る

SE: 少し椅子をガタツとさせる国木田さん

KU_0071

【国木田】

「そうだ、執筆状況はどう？ 前に比べたら随分捗ってるみたいだけ
ど」

KU_0072

【国木田】

「よかったら、見せてもらってもいい？ 部の先輩というよりは官能
小説書きの先達として、文章的にもアドバイスができと思うか
ら」

KU_0073

【国木田】

「ありがとう。じゃあ、今度は泉くんのPCのところで」

二緒に場所移動。移動中は会話なし。

SE: 歩く音がないと移動したことが伝わりづらいかも

国木田さんが泉くんの椅子に座り、泉くんは国木田さんの右斜め後ろに立
つ。

■ 2と3の間

KU_0074

【国木田】

「あ、椅子借りるね」

SE: 椅子の音をさせて国木田さんが座る。

KU_0075
【国木田】

「では、拝見します」

SE: 国木田さんがカーソルキーを押して画面をスクロール。最初はひとつずつ。その後、あれ？と思って6連打くらいする。

KU_0076
【国木田】

「……………あれ？ これ、普通の小説？ えっちなのじゃなくて？」

KU_0077
【国木田】

「そうだったんだ……私、勘違いしてたね。てっきり泉くん、この前の続きを書いてるものだとばかり」

恥ずかしくてちよつと赤面。笑顔でごまかすイメージ。ほんのり慌て感も。

KU_0078
【国木田】

「ごめんねっ、見当違いのアドバイスしちゃったね」

KU_0079
【国木田】

「あつ、別に普通の小説を書いてもいいんだよ。むしろ部活動的にはそっちが優先だろうし」

KU_0080
【国木田】

「今は泉くんが書きたい方を書けばいいと思うよ」

KU_0081
【国木田】

「えっちなやつの方は、たぶんまだ人に見せられる状態じゃないんだよね？」

KU_0082
【国木田】

「私が見ても大丈夫になったら教えて。読者目線で意見を出してあげるから」

KU_0083

【国木田】

「それとも……もっと違う形で、泉くんをお手伝いした方がいいかな？」

KU_0084

【国木田】

「たとえば………参考資料を提供する、とか」

そこから国木田さんのスイッチが入る

SM: 椅子の音をさせて、身体を泉くんに向ける。

■
1

KU_0085

【国木田】

「見て、泉くん」

SM: 大きく脚を開き、スカートをたくし上げる。

KU_0086

【国木田】

「タイツまで、染みちゃった」

KU_0087

【国木田】

「頑張る泉くん見てたら……ね。先の展開をいろいろ想像しちゃって、興奮して、だからこうなって……」

KU_0088

【国木田】

「こういうの、参考資料になるかな……？」

KU_0089

【国木田】

「参考に……して……こういうのも、もっと他のところでも……泉くんが知りたいこと、ぜんぶ……」

泉くんが国木田さんに迫り、抱き締める

KU_0090

【国木田】

「あっ！ ……ああっ！！」

途中でキスされる

KU_0091

【国木田】

「泉くんっ、待って、そんな焦ら……んんむっ！」

SE: 泉くんがグイグイ来るたび椅子がズリ動く

泉くんが右脚を国木田さんの右太股に乗せる、変則気味な対面騎乗位っぽい姿勢になって、股間をグリグリ押しつける。

KU_0092

【国木田】

「ぶあっ！ はあっ、はあっ……慌てなくても、ちゃんと受け止めるからっ……ゆっくり……」

独り言的にやや小声で。泉くんに聞こえない呟きではないです

KU_0093

【国木田】

「泉くんのおそこ、硬くなってる……グリグリって……押しつけてきて……んんっ！」

後半は舌を突き出している

KU_0094

【国木田】

「参考資料にする、ならっ……えろお……」

どうぞ、舌吸って

KU_0095

【国木田】

「ろうぞ……ひた……すっへ……」

KU_0096

【国木田】

「んむっ、じゅるるるっ、ちゅう~~~~っ、にゅるっにゅるっにゅるっ」

KU_0097

【国木田】

「ちゅばっ……じゅ……んふっ……キス……すき……ちゅうっ、ちゅ……ぶじゅっ……れろっ、れろっ……ちゅばっ……」

KU_0098

【国木田】

「はぁ……はぁ……はぁ……もっと……する?」

KU_0099

【国木田】

「んっ、来て……ぜんぶ……泉くんの好きにしていいいから……」

唇同士くっつけるの三連、その後舌挿入して絡め合い、すすり上げ、舌を吸う。

KU_0100

【国木田】

「ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ……ぬちゅ~~~~っ……ぐちゅぐちゅぐちゅ、じゅるるるっ、ちゅう~~~~っ」

KU_0101

【国木田】

「すごい、ぐちゅぐちゅ……こんなキスするの、何日ぶりかな……」

KU_0102

【国木田】

「もっとしたい……して?」

KU_0103
【国木田】

「（激しいディープキスを30秒ほど。途中息継ぎを挟んでください。舌を絡めたり、吸ったりがメインですが、唇同士を合わせてちゅっちゅする軽い感じのもの）」

KU_0104
【国木田】

「はあっ……はあっ……はあっ……」

KU_0105
【国木田】

「泉くん、ここ、すごいよ……あんなにグリグリされたら、早く気持ちよくなりたいよーって催促されてるみたい……ふふっ」

KU_0106
【国木田】

「立ってもらってもいい？ うん、ちゃんとするから……」

国木田さんから降り、正面に立つ泉くん。

SE: 泉くんが立ち上がるときにまた椅子がちゅっとな音を立てます

ちゅっとな泉くんの股間が顔の近くにある位置関係

KU_0107
【国木田】

「泉くん、やっぱりすごいね……こんなになって……」

KU_0108
【国木田】

「すん……すんすん……匂いも強くなってるね……まだ精子の匂いはしてこないけど……」

KU_0109
【国木田】

「あっ、今ぐうって動いた……泉くん、匂い嗅がれて興奮したんだ……」

KU_0110
【国木田】

「ここ、苦しそう……今出してあげるね……」

SE: ゆっくりファスナーを下ろしていく

SE: ベルトを外すカチャカチャした音

SE: ズボンをバサツと下に落とす。脚は脱げてない

泉くんのパンツの上から股間に顔を埋め、ゆっくりと息を吸い込む。

KU_0111
【国木田】

「んふ……すうーっ」

KU_0112
【国木田】

「はぁぁ……泉くんの……発情した匂い……」

KU_0113
【国木田】

「ここ何日か、泉くん集中してて、こういうこと全然出来なかったから……すうーっ……久し振り、な感じで……はぁぁ
ーっ……」

KU_0114
【国木田】

「もう我慢できないみたい……泉くん、脱がすね……いいよね……」

SE: 泉くんのパンツを下ろす

KU_0115
【国木田】

「はぁぁ……すごい……こんなになって……泉くん、上向いちゃってるよ。どうしてこんなに元気なの？ もしかして、私としなかった間、全然射精してなかったの？」

竿を嗅ぎつつ玉チェック。たふたふとして大きさと重さを確認する。

KU_0116

【国木田】

「肉欲を濃縮したみたいな強い香り……陰囊も、いつもより大きいね……こんなに貯め込んでやって……ずっしり重い……」

KU_0117

【国木田】

「私が泉くんに参考資料を提供するつもりだったのに……こんなものるい……こっちが資料をもらうことになっちゃう……」

KU_0118

【国木田】

「ならせめて……泉くんの参考になるようなこと、するからね……」

竿を持ち、支える

最初は玉にキス、そのまま徐々に上に移動しながら何回もキスして、最終的には亀頭にキスする。

KU_0119

【国木田】

「ちゅっ……ちゅっ……ちゅっ……ちゅっ……ちゅっ……」

亀頭にキスした後、再び根元に戻って、下からゆっくり先端まで舐め上げる

KU_0120

【国木田】

「れろお~~~~~~~~っぶー!」

KU_0121

【国木田】

「はぁ……はぁ……あっという間に……ぬるぬるになっちゃった……泉くんの、が……私の唾液で……ふふっ、なんだかマーキングしたみたい」

SF: 竿を握って手コキをはじめ。国木田さんの唾液まみれなので、結構ねちよねちよ音がする

KU_0122

【国木田】

「すごいっ……かたいよ、泉くんっ……はあ、はあ……めいっぱい膨張して……苦しそう……貯め込んだ精液、早く解放してあげないと……っらそう……」

KU_0123

【国木田】

「泉くん……私の口、使って……いっぱい吸うから……ズボズボ出し入れして……気持ちよくなって……」

国木田さん自ら竿を倒し、唇に宛がう。先端を軽くにゆるにゆるさせてから、ゆっくりとペニスを口内に挿入していく。

KU_0124

【国木田】

「むちゅっ、ちゅ、にゅぢぢぢぢ……っ！」

軽く出し入れしてから、強く吸引

KU_0125

【国木田】

「にゅこっ、にゅこっ、じゅびっ、じゅっ、んちゅうううううっ……っ！」

激しくセルフイラマチオ。喉奥まで届いている感じ

KU_0126

【国木田】

「んぢっ！ じゅぢぢぢっ！ ぐぢっ！ ぐぢっ！ ぐぢっ！」

KU_0127

【国木田】

「ぐぼっ、ぐぼっ、ぐぼおっ……じゅるるるるっ！ じゅぼっ！ じゅぼっ！ じゅぼっ！ じゅぼっ！」

KU_0128

【国木田】

「（イラマチオをリズムよく30秒ほど。5回くらい出し入れしたら、いったん止めて喉奥でグリグリ。次に引き抜く際はめちやくちや吸い付いている。その繰り返し）」

イラマチオ終了。ペニスを吐き出し、軽く咳き込む。その後、息継ぎ。

KU_0129

【国木田】

「ぶぱっ！ えほっ、げほっ、げほっ……はぁ……はぁ……」

KU_0130

【国木田】

「だ、大丈夫……だから……こういうの何度もしてるし……平気だよ……」

KU_0131

【国木田】

「でも……あんなに激しかったのに、泉くん出さなかったんだ……私の口は泉くん専用のお便所なんだから、喉奥に濃いひり出してよかったんだよ……」

話しながらゆっくり立ち上がる国木田さん

SE: 立ち上がる際の椅子の音

KU_0132

【国木田】

「それとも……やっぱり、こっちじゃなきゃだめだった？ おまんこ……好きだもんね……」

立って向かい合わせになった状態で、軽くキス

KU_0133

【国木田】

「泉くん……ちゅっ……」

SE: キスしながらペニスを握り、ゆっくりめに手コキする

少し音を立てながらキスを継続

KU_0134
【国木田】「んんっ……ふっ……ちゅふ……ちゅ……ちゅ……ちゅばあ……」

KU_0135
【国木田】「ふう……ふふっ、すごいパンパンに膨らんでるね……今すぐ出
したいって催促してるみたい」

■
3

泉くんの左耳に口を近づけ、囁く

KU_0136
【国木田】「……………そろそろ、入れる？」

KU_0137
【国木田】「いいよ……私はいつでも……ずっと欲しいって思ってたから……」

KU_0138
【国木田】「あっ、今びくんってしたね？ 耳許で囁かれてドキッとしちゃっ
た？」

KU_0139
【国木田】「それとも……挿入、期待しちゃったからかな？」

KU_0140
【国木田】「泉くんは素直だねー……うん、もっと……自分の欲望には、素直に
なって欲しいな。特に……私に対しては……ねっ」

SE: 泉くんの頭を撫でる国木田さん。音は不自然かも？
最後に軽く耳にキス

KU_0141
【国木田】

「よしよし……泉くんはかわいいなあ……ちゅっ」

KU_0142
【国木田】

「じゃあ、しよっか。あんまり待たせちゃ可哀想だもんね」

KU_0143
【国木田】

「体位はなににする？ そうだなあ……正常位なら、唇にキス。騎乗位なら……おでこ。後背位なら頬……に、キスしてみて」

泉くんが荒々しく国木田さんの唇を奪う

KU_0144
【国木田】

「んむっ！ ちゅっ、ちゅばっ……唇う……んむっ、じゅ……泉くん、わかったから……そんな激しくキス……しないでっ……んんっ！」

KU_0145
【国木田】

「じゅぶっ……ちゅじゅっ、ちゅううっ！ ぶあ……はあ……はあ……ん、もつとキス……いいよ……」

KU_0146
【国木田】

「んちゅ……ちゅっ、ちゅっ、ちゅ……れろれろれろ……んふっ……ぶちゅ……ちゅば……」

KU_0147
【国木田】

「（キスに集中20秒ほど。激しさは弱めで丁寧な感じ。がつつく泉くんをやさしく受け止めなだめているイメージ）」

■
1

KU_0148
【国木田】

「はあ……はあ……泉くん、硬いの押しつけすぎ。もう、そんなに挿れたかったんだね」

KU_0149
【国木田】

「唇にキスしてくれたから、正常位だよね。床でいい？ なにか敷かないとまずいよね」

SE: 泉くんが部屋の床に自分のコートを広げる

■ 10と11の間

コートを広げた時点で国木田さんとの位置関係は10をイメージ。急に移動したみたいにならないよう注意。

KU_0150
【国木田】

「あつ、コート？ いいの、泉くん？ よごれちゃうよ?」

KU_0151
【国木田】

「うん……床の汚れもあるけど……その、主に愛液とか精液で……ね」

KU_0152
【国木田】

「……………もう、なるべく汚さないようにするから」

KU_0153
【国木田】

「あつ、それと……ごめんなさい、今日はちょっと……避妊具、使ってもらえるかな?」

KU_0154
【国木田】

「うん……そろそろ赤ちゃん出来ちゃう日だから……ね」

KU_0155

【国木田】

「取ってくるから泉くんは準備して待ってて」

国木田さんがゴムを取りに行く。その間、泉くんは床に敷いたコートを整えている。

SE: 泉くんが広げたコートのシワを取っている。この音はないほうが自然かも。

■ 10

SE: 国木田さんが自分の席の真後ろにあるキャビネットを開ける。

SE: ゴソゴソと取り出す音。隠していたゴムの箱を出し、箱を開け、複数取り出す。

取り出しながら

KU_0156

【国木田】

「まさか、部室のこんなところにコンドーム隠してるなんて、誰も思わないだろうね」

KU_0157

【国木田】

「だいたいは生でしてるから……消費は多くないはずなのに……ほら、見て泉くん。もうこんなに減ってるよ」

KU_0158

【国木田】

「また買ってこなきゃ。今度一緒にドラッグストア行こっか」

KU_0159

【国木田】

「ふふっ、冗談だよ。お店でまとめ買いしたら、この子達こんなにいっぱいえっちするんだーって思われちゃうもんね。ネット通販なら、たくさん買っても恥ずかしくないから」

SE: 国木田さんが戻ってくる。歩く音

■
9KU_0160
【国木田】

「お待たせ、泉くん。ついでにタオルとウェットティッシュも持って来たよ」

KU_0161
【国木田】

「コートの上にタオル敷けば、汚れも防げると思うよ。……気休めかもしれないけど」

KU_0162
【国木田】

「それと……ゴムも、ね。一応、いくつか持って来たから……今のところはこれで。足りなくなったら、また取ってくるから」

KU_0163
【国木田】

「今日の泉くん、いっぱい出したいみたいだからね。いいよ、最後まで付き合うから、遠慮しないで」

KU_0164
【国木田】

「よし、じゃあゴムつけるね」

泉くんの前に膝立ちになる

KU_0165
【国木田】

「少し間が空いたのに、大きいまんま。すごいよ……上向いて……これだけ勃起してたら、すぐつけられそうだね」

：SE：国木田さんがコンドームを開封する

KU_0166
【国木田】

「ふくよー」

KU_0167

【国木田】

「身体にぎゅって力入れちゃって……くすぐりたい？ それとも、気持ちいいのかな？」

KU_0168

【国木田】

「……はい、できた。これで大丈夫」

SE: 国木田さんがコートの上に仰向けになる音

KU_0169

【国木田】

「どうぞ、泉くん……来て……」

SE: ペニス挿入音。ゆっくり。

■ 1

KU_0170

【国木田】

「あっ……っっ……っ！」

KU_0171

【国木田】

「一気に……ずぶ……って奥まで……来たぁ……」

KU_0172

【国木田】

「泉くん……もっと……深く入れていいよ……ぐうって、私に体重かけて……」

■ 1 ← 7 と 8 の間

上半身同士をくっつける密着感。ふたりの顔が近づき、泉くんの右に国木田さんが来る。

KU_0173
【国木田】

「んあっ！ あっ！ はああっ……すごい……泉くんの、奥まで刺さってる……」

KU_0174
【国木田】

「はあ……はあ……顔も、こんなに近くて……んんっ……もっところち、来て……」

■
7

更に顔が近づき、泉くんの右耳にキスする

KU_0175
【国木田】

「ちゅ」

KU_0176
【国木田】

「耳にキスしちゃった。ふふっ……ちゅ……ちゅっ……ぺろ……ちゅ……」

KU_0177
【国木田】

「泉くんは……そのまま動いて……そう、私を押し潰すみたいに……ずんずんって、して……」

:SE: 動きはじめる泉くん。力強い抽送音

KU_0178
【国木田】

「はああんっ！ あっ！ あっ！ すごいっ……泉くんっ、すごいよおっ！ー！」

KU_0179
【国木田】

「（強めに出し入れされて喘ぐ。20秒ほど。リズムミカルな動き）」

KU_0180

【国木田】

「泉くんっ……あぁっ、泉くんっ……ちゅっ、ちゅ……はむっ、んむんむむっ……ちゅうううっ！」

KU_0181

【国木田】

「あっ、あっ、あっ、ゴムつけてるのに……気持ちいいよっ……泉くんっ……あぁっ、激しいっっ……はぁんっ！ あっ、あっ、あぁあぁあっ！ー！」

KU_0182

【国木田】

「もっと激しく……泉くんが気持ちよくなるように、突いてっ……んあぁあっ！ はぁっ！ あっ！ 泉くんっ……泉くんっっ！ー！」

KU_0183

【国木田】

「耳じゃなくて口にキス、したい……泉くんっ……」

■
1

正面からがつつりキス

KU_0184

【国木田】

「ちゅっ……ちゅっ！ ちゅっ！ ちゅっ！」

苦同士を絡め合う←舌をはむっとして吸う←離して舌舐め

KU_0185

【国木田】

「舌……出してえ……んむっ、ぺろっ……ぺろお……れろれろれろろっ……ちゅううっ！ ちゅっ、ぺろっ、ぺろっ、ぺろっ」

KU_0186

【国木田】

「（挿入しながらディープキスを20秒ほど。激しく濃厚に舌を絡め合ったり吸ったり。同時にペニスで突かれているので息遣いを意識しつつ、合間に喘ぎを入れてください）」

キス終了

SE::腰の動きはストップ。抽送音もここで止める。

KU_0187

【国木田】

「ふぁっ！ はぁっ……はぁっ……もう無理っ……気持ちよすぎて……キス続けられないからぁっ……」

泉くんにぎゅうつとしがみつく国木田さん

SE::抱き締める音をナチュラルに。わざとらしくなりそうならなしでお願いします

■ 2と3の間

KU_0188

【国木田】

「このまま最後まで……泉くんっ……お願い……」

SE::出し入れ再開。速度をあげて激しく

KU_0189

【国木田】

「ふぁぁっ！ あぁっ！ あんっ！ あんっ！ あんっ！
あぁぁーっ！ 泉くんっ！ あぁっ！ あんっ、あんっ、あんっ！」

KU_0190

【国木田】

「（フィニッシュ直前の激しい喘ぎ声を30秒ほど。間隔が短く息が押し出されるような喘ぎ）」

KU_0191
【国木田】

「あああつ！ 泉くんっ……泉くんっっ……私っ……私もうつつ……！！！」

KU_0192
【国木田】

「あつ！ あつ！ はああつ！ ああつ！ やっ！ イクっ……もうっ、イツちゃうっ……！！ 泉くんっ……泉くん泉くん泉くんっっ……！！！」

KU_0193
【国木田】

「泉くんもっ……出して……せーし出してえっっ……はあん！ あつ、あつ、あつ、我慢しないでっ……いっぱい……どぴゅって……！！！」

KU_0194
【国木田】

「もう駄目っっ……イクっ……イクイクイクっ！！ イクう……く……く……っっ！！！」

国木田さん絶頂に続いて泉くんも射精

KU_0195
【国木田】

「はあっ……はあっ……はあっ……泉くんのちんちんで……イツちゃった……」

KU_0196
【国木田】

「泉くんも……んんんっ……ふうっ……びゅーっ、びゅーって……出てるね……んっ……気持ちよかった……？ 私はね……」

■ 3

泉くんの左耳に囁く

KU_0197

【国木田】

「とーっっても……気持ちよかったよ……」

お礼に泉くんの左耳にキス

KU_0198

【国木田】

「ありがとね、泉くん………ちゅっ」

KU_0199

【国木田】

「ふふっ、まだビクンビクンしてる……いいよ、そのままじっとして……全部出ちゃうまで、私のなかにいてね……」

KU_0200

【国木田】

「んうっ……ふうう……はぁっ……出してる出してる……びゅーっしてるね……んっ、すごい……こんなに出来たらゴムが破けちゃうかも」

少しの間

KU_0201

【国木田】

「もういいの？　じゃあ、いったん抜こうか」

■
1

泉くんが身体を起こし、国木田さんから離れる

KU_0202

【国木田】

「わぁ、ゴムばんぱんだ……たくさん出したね………すっきりした？」

KU_0203

【国木田】

「そのままじゃ気持ち悪いよね。じっとしてて、外してあげるから」

KU_0204

【国木田】

「ん、取れた」

KU_0205

【国木田】

「ほら見て泉くん。こんなに出たよー」

KU_0206

【国木田】

「ふふっ、ぶっくりしてる。ちょっとかわいいね」

KU_0207

【国木田】

「ここに泉くんの精子が……たっぷり含まれてるんだね……そう考えるといやらしいかも」

KU_0208

【国木田】

「いつもこの量が……私のここに入ってるんだ……んっ、中出しされる感触思い出して、きゅうってなっちゃった」

KU_0209

【国木田】

「あと何日かしたら……ね。これつけないで大丈夫になるから……」

スッと泉くんに近づき、右耳に囁く

■
7

KU_0210

【国木田】

「そのときはまた、いっぱい私に注いでね……約束だよ」

軽く右耳にキスしてシーン終了

KU_0211
【国木田】

「ちゅっ」

.....

▼トラック 03	時間経過して数日後。 尚者とも文芸部の部屋にいて、作業中。それぞれノートPCを開き、キーボードを叩いている。 位置関係は今までと同じ。泉くんの正面の席に向かい合わせに座っている国木田さん。 ■ 9 SE: ファンヒーターの音をバックで微かに。位置は14と15の間。泉くんに近いけど、国木田さんにも温風が当たるように角度調整している。 SE: 電気ケトルの音。もうすぐお湯が沸くので、しゅうしゅうという音が少しずつ大きくなっていく。位置は10と11の間 SE: ノートPCのキーボードを叩いている泉くん。遅めなのは変わらずだけど、手は止まらない。順調な様子。 SE: 同じくノートPCのキーボードを叩いている国木田さん。軽快。途中で手を止める。 SE: 手描きで何かをメモしている。少し書いてからペンを置く。そしてキーボード入力再開。 SE: しばらくしてお湯が沸き終える。ベコツと音がしてスイッチが切れる。そこで国木田さんがキー入力を止める。 「……あ、沸いた」 「泉くん、お湯沸いたよ。少し休憩にしようか」 「キリのいいところまで続けてて。その間に飲み物の用意するから」
-----------------	---

KU_0212

【国木田】

KU_0213

【国木田】

KU_0214

【国木田】

KU_0215

【国木田】

SE: 国木田さんが立ち上がる。椅子の音

■ 9 ← 10と11の間

SE: 電気ケトルのところまで歩いて行く。

「泉くんは何にするー？ 私は……ほうじ茶にしようかな。今日はそういう気分」

KU_0216

【国木田】

「泉くんも同じにする？ いいよー、ティーバッグあるし」

SE: 2人分のほうじ茶の用意をする国木田さん。カップを出し、置く。

ティーバッグを取り、カップの中へ。電気ケトルのお湯を注ぐ。電気ケトルを置く。

SE: カップを2つ持ち、泉くんのところへ移動する国木田さん。

■ 10と11の間 ← 4

机の島を反時計回りに移動していく。最後には泉くんの左手前まで移動する。

SE: 泉くんの左手近くの机にカップを置く。国木田さんは自分の分は持ったまま。

作業中の泉くんの邪魔をしないように音量は控えめに

KU_0217

【国木田】

「どうぞ、泉くん」

KU_0218

【国木田】

「ふー、いい香り……落ち着く……」

あつあつのほうじ茶をすすり、深く息を吐く

KU_0219
【国木田】

「ずずずっ……ふー、あったか……」

SE: 泉くんの手が止まる。

KU_0220
【国木田】

「あ、もういいの？」

SE: 泉くんが自分のカップを持ち、ずずずとする

KU_0221
【国木田】

「火傷しないように気をつけてね」

SE: 泉くんがお茶をふーふーする。

KU_0222
【国木田】

「ふふっ、やっぱり熱かったんだ？ 慌てて飲むから……」

KU_0223
【国木田】

「でも、あつあつでおいしいでしょ？ たまにはいいよね、ほうじ茶」

KU_0224
【国木田】

「ふーっ、ふーっ……ずずずずず……ふあああ〜」

KU_0225
【国木田】

「これは……ゆるんじやうよねえ、色々」

SE: 国木田さんが持っていたカップを机に置く

KU_0226
【国木田】

「調子はどう？ 順調そうだけど」

KU_0227

【国木田】

「あ、今日は見てもいいんだ？ ありがとう、泉くん」

KU_0228

【国木田】

「じゃあ、文芸部の先輩として、少し読ませてもらうね」

SM：左の席の椅子を引っ張り、泉くんの椅子とくつつける。そこに国木田さんが座る。

■
3

泉くんの左に陣取る。距離が更に近づいている。至近距離。

SE：国木田さんが読みやすいようにノートPCを左に押して移動させる。

KU_0229

【国木田】

「どれどれ……」

SE：国木田さんが手を右に伸ばし、カーソルキーで画面をスクロールさせる。

しばらくは無言で読むのに集中する国木田さん

KU_0230

【国木田】

「ふむふむ……」

少しの間

SE：テンキーの音終了

KU_0231

【国木田】

「ありがとう。少しだけど、今はこのくらいで十分かな」

■
1

SE:姿勢を正して正面から向かい合う。椅子の角度も変わるのでその音も。

言葉を選ぶうとしている国木田さん。ストレートに言ったら傷つくかな？
よし、まずは褒めよう、という切り口。

KU_0232
【国木田】「ええと……まずはお疲れさま、泉くん。頑張ったね」

KU_0233
【国木田】「前回見せてもらってから、かなり手直ししてるよね。原型留めてないくらいに変わってるでしょ、これ」

KU_0234
【国木田】「ざっくりと見せてもらっただけでも、泉くんの努力はすごく伝わったよ。だから、ご苦労さまでした」

KU_0235
【国木田】「という前提を踏まえて意見を述べさせてもらうけど……全体的にかなり冗長かな……って思った。考えてることをストレートに文字にした文章じゃ、官能小説にそぐわないと思う」

KU_0236
【国木田】「文章表現もちょっと物足りないね。こういった小説特有の表現は多数あるから、他の小説を読んで参考にしてみて。書き写す作業をするだけでも、かなり勉強になると思う」

KU_0237
【国木田】「こういうのとはかく数をこなすのが一番なんだけど……それも難しいよね」

KU_0238

【国木田】

「あとは台詞が多すぎかな。登場人物が喋ってることを全部書いてたらキリがないから、うまく要点を絞って内容の密度を濃くするように」

KU_0239

【国木田】

「その上で、なんだけど……うーん、淫猥さが足りない気がする。読んだらじわーっと内側から湧き上がってくるあの感覚がないっていうか」

KU_0240

【国木田】

「ねえ、泉くん……書きながらちゃんと興奮してる？ 自分の書いた文章で、おちんちんおつきくしてる？」

KU_0241

【国木田】

「ごめんね、からかってるわけじゃないから。これは真面目な話なの。官能小説なんだから、読者を欲情させることを最優先にしないといけないんだけど……」

KU_0242

【国木田】

「それにはまず、作者が興奮していないと駄目。自分が書いた文章でオナニーするくらいじゃなきゃ」

KU_0243

【国木田】

「私も……うん。してるよ、オナニー。執筆しながら、いやらしい気持ちちが膨れあがって、おなかの奥が熱くなってじんじんして……」

KU_0244

【国木田】

「我慢できなくなっって、胸とか、あそこに手が伸びちゃって……ああ、自分の書いた文章でこうなってるんだから、よく書けてるんだなって満足するの」

KU_0245

【国木田】

「泉くんはそういうことってある？ 書いてる最中に勃起したら、ちゃんとしこしこしてあげなきゃ」

KU_0246

【国木田】

「自分の文章でオナニーするのはちっとも悪いことじゃないよ。むしろ習慣づけて欲しいな」

KU_0247

【国木田】

「よかったら……今からやってみる……？ 慣れてない泉くんのために……ね。私が少しだけ、お手伝いしてあげるから」

立ち上がり、泉くんの背後に回る国木田さん

SE: 椅子の音

■ 5と6の間 → 7

後ろから覆い被さるような姿勢に移行

KU_0248

【国木田】

「どのシーンがいいかな……直接的すぎるところは簡単に勃起しちゃうと思うから、もっとこう……」

SE: カーソルキーを叩いて、求めるシーンを探す

KU_0249

【国木田】

「あ、ここがいいかも。見て見て泉くん。丁度いいシチュエーションじゃない？」

KU_0250

【国木田】

「『先輩が背中から抱きしめて来た。その豊満な双丘を押しつけながら、耳許に舌を這わせていく』。だって……」

KU_0251

【国木田】

「……………なら、ちょうどいいかも」

KU_0252

【国木田】

「じゃあ早速、やってみるね、泉くん」

SE:ぎゅっと抱き締める

KU_0253

【国木田】

「んんっ……ちゅ……ぺろっ……」

KU_0254

【国木田】

「ふふっ、ゾワゾワってするでしょ？ 耳って敏感だね。体験してみるまでわからなかったけど」

KU_0255

【国木田】

「ちゅっ……ちゅば……じゅ……ぺろ……ぺろ……ぺろっ……」

KU_0256

【国木田】

「ねえ、泉くん……私の胸、背中に感じて……？ 舌も……耳を舐めてるけど、それだけじゃないよね。吐息とか、髪の毛とか……そういう様々な情報を感じ取って、泉くんが興奮したものを文章に換えて、読者にも届けて欲しいの……」

KU_0257

【国木田】

「どう……？ 興奮してる？ こんなことされて、期待して、更に先の展開を想像して……」

KU_0258

【国木田】

「セックス、するんだなって……考えちゃうよね……うん、それでいいんだよ……」

KU_0259
【国木田】

「んっ……ちゅ……ちゅ……ぺろお……ちゅうつ！　ちゅ！」

KU_0260
【国木田】

「ふふっ、泉くんの耳、おいし……えっちな味がする……」

KU_0261
【国木田】

「どう？　耳許でこんなこと言われて……ドキドキしちゃうよね？
あからさまな誘惑だもん、反応しちゃうよね」

右耳に囁き

KU_0262
【国木田】

「いいよ、泉くん……勃起して……私のために、おちんちんカチカチ
にして欲しいの……」

KU_0263
【国木田】

「……あ、ズボンのとこ、膨らんでるね……勃起してくれたんだ……
…」

SE:ズボンの上から股間をまさぐる。スリスリ。

KU_0264
【国木田】

「んっ……かたいね……パンパンに膨らんでる……これならオナニー
できそうだよね……」

KU_0265
【国木田】

「……………ファスナー、下ろすね」

SE:ゆっくりと泉くんのズボンのファスナーを下ろしていく

KU_0266

【国木田】

「どうする？ 自分で出せる？ あつ、そういえば泉くんの小説に、似たシーンがあったような……」

SE: カーソルキーを素早く叩き、該当のシーンを表示させる

KU_0267

【国木田】

「あつた、ここだ。ええと……」

KU_0268

【国木田】

「『先輩は器用にファスナーを下げると、苦しそうに張り詰めた怒張を――』……あ、ここは表現かぶってるから直した方がいいね」

KU_0269

【国木田】

「暫定的に『陰茎』にしようか。『張り詰めた陰茎を引きずり出すと、指で輪を作り、雁首をこすり立てていく』……だって。まずは私が先輩になったつもりでやってみるね」

SE: ズボンからペニスを引きずり出そうとするが、できない

KU_0270

【国木田】

「ん……しょっと……大きくなりすぎて出しづらいかも。勃起している状態だと、ボタンも外さないとおちんちんは取り出せないかもね。うん、こういうリアリティは大事にしていこう」

SE: ベルトを外し、ズボンのボタンを外す。前面を開く。

KU_0271

【国木田】

「よし、できた……こうして見ると、やっぱり大きいね……私の方が興奮しちやいそう」

KU_0272

【国木田】

「泉くん、まずは私から行くよ……文章の通りに……指で輪を作って……カ리를……しこしこする……」

:SE:ゆっくり手コキ開始

KU_0273

【国木田】

「んっ……泉くんのおちんちん……完全に勃起してるね……くびれもすごいよ……いつも通りかっこいい……」

KU_0274

【国木田】

「んふっ……あっ……もうさきつちよ濡れてきた？ 尿道口からじわじわと出てきてるよ。泉くん反応よすぎ……」

KU_0275

【国木田】

「もう少し……しこしこを続けるからね……そうだ、泉くんも一緒にしょ？ 泉くんのおナニーなんだから、自分でもしなきゃ」

KU_0276

【国木田】

「私が亀頭をいじるから、泉くんは竿をこしこして……うん……大丈夫だよ、泉くんのおちんちんおっきいもん。ふたりでしても大丈夫だって」

KU_0277

【国木田】

「ほら、やってみて……先輩に手コキしてもらってるのを想像しながら……そうそう、おちんちんこしこして……」

KU_0278

【国木田】

「んんっ……ふぁ……そうそう、その調子だよ……そっか、泉くんは普段こんな感じでオナニーしてるんだ……かなり強くしごいてるけど、こんなにしても大丈夫なんだね……」

KU_0279

【国木田】

「じゃあ私も……もうちょっと強く、さきつぽグリグリしてあげるね。泉くんはきつとこんな感じでオナニーしてるんだろうなって想像して、するから……」

SE::溢れたカウパーが国木田さんの手に付着し、広がる。グチュグチュした音がしはじめる。

KU_0280

【国木田】

「あっ……んんんっ……泉くんが出したので、私の手、べとべとになってきたよ……ほら見て……」

KU_0281

【国木田】

「ぬるっとしたのが掌についてるね……泉くんのおちんちんも、ローションつけたみたいになってる……」

手についた先走りを舐める国木田さん

KU_0282

【国木田】

「ちゅっ……ぺろお……んふ……ぺろ……ん、ちよつとしょっぱい……泉くんのカウパー氏腺液、舐めちゃった……」

ねっとり耳許で囁く

KU_0283

【国木田】

「すぐく……興奮するよね……おちんちんイライラするでしょ……いいよ、そのイライラをぶつけて……握った竿を……いっぱいごしごしして……気持ちよくなろうよ……」

SE::泉くんのオナニーが激しくなる

KU_0284

【国木田】

「あつ、すごい……そんなに激しくごしごしして……クチュクチュ音
しててすごいよ……見てるだけで発情しちゃいそう……」

泉くんの右耳に何度もキスする

KU_0285

【国木田】

「ちゅ……ちゅっ……泉くん、好き……ちゅっ……もっともっと……
興奮して……ちゅっ……」

■ 7 ← 5

喋りながら右耳から遠ざかり、真後ろへ

KU_0286

【国木田】

「うん、そのまま……いい感じだよ……泉くんがすごく興奮してるの
が伝わってくるオナニーだね……」

SE: カーソルキーを何度か叩いて画面をスクロール

KU_0287

【国木田】

「この調子で続けるね。次は……もうちょっと刺激的な行為のシーン
で……あ、ここなんてよさそう」

SE: ハッでオナニーの勢いを抑える。

KU_0288

【国木田】

「『先輩は恭しく跪くと、目の前でそり立つ魔羅に口づける。二度
三度、挨拶するようなキスの直後、淫らに濡れた唇を押し当て、一
気に飲み込んでいく』……うん、フェラチオのシーンだね……これ
にしよう」

■ 5 ← 3

KU_0289

【国木田】

「じゃあ、泉くんは目を閉じて……フェラチオされてる気分になって、自分でしこしこしてね。私は妄想のお手伝いをするから……」

囁き

KU_0290

【国木田】

「行くよ」

3回左耳にキス。亀頭にキスをしているイメージで

KU_0291

【国木田】

「ちゅっ……ちゅっ……ちゅっ……」

ペニスを飲み込むイメージで泉くんの左耳に舌を挿入し、舐め回す。フェラっぽい効果音を聞かせてあげる

KU_0292

【国木田】

「れろんっ、にゅるるるるるるるるるるっ、れろれろっ、じゅるるっ、じゅぶっ」

KU_0293

【国木田】

「ふふっ、どう？ フェラチオされてる感じ、した？ 臨場感たっぷりの効果音は私に任せてね」

KU_0294

【国木田】

「ほら、もっとしごいてしごいて。ちんちんじゅぶぶするよー」

:SE:: 泉くんのオナニー加速

KU_0295

【国木田】

「うんうん、その調子……頑張つて、泉くん。じゃあ、私も……」

左耳に舌を挿入し、思い切り舐め回す

KU_0296

【国木田】

「ねろおろろ……れるんっ、れるんっ、れるんっ、れろれろれろろろっ、じゅるるるるっ、ちゅるっ、じゅっ」

KU_0297

【国木田】

「（泉くんの左耳穴に舌を入れ、舐め回す。20秒ほど。汁気多めで激しいフェラチオをイメージする音に近づけてください）」

耳穴舐めを中断して、囁きながら耳にキスしたり舐めたり

KU_0298

【国木田】

「んぶうつ……ちゅばっ……はぁ……はぁ……泉くん……泉くん……ちゅっ……ぺろぺろぺろ……」

KU_0299

【国木田】

「んんっ……泉くんのオナニーもクライマックスかな？ どう？ イキそう？ ザーメン出ちゃうの？ いいよ、気持ちよく射精しよ？ 泉くんが書いた文章で射精するんだよ？ きつとすっごく気持ちいいから……いっぱい出るよね……いつもたくさん出すけど……もっと多いよね……濃いの出して……喉の一番奥で……射精して……どぴゅって……妊娠しろって、種付けするつもりで……私を泉くんのザーメンで溺れさせてよ……」

KU_0300

【国木田】

「いいよ……最後に全力でぺろぺろするから……いっぱい……出してっ……」

KU_0301

【国木田】

「にゅぷぷ……れろれろれろっ、じゅぷっ、じゅぷっ、じゅぷっ、
じゅぽぽぽっ！ ちゅるっ、じゅっ、ぶじゅるるるるるーっ
っー！」

泉くん射精する

KU_0302

【国木田】

「ぷあっ！ はぁ……はぁ……やった……出た……泉くん、射精した
ね……びゅるるーって……ふふ、すごい飛距離……んっ、まだ出て
るの？ いいよ、我慢したら気持ちよくないから……すっきりする
まで出しちゃお……んんっ……私も……手伝ってあげるね……」

SE: 国木田さんも手コキに参加。

KU_0303

【国木田】

「んっ……太い……最初よりちんちんパンパンだね……びくんびく
んって暴れて……どぶどぶ白いの出してる……んっ、角度に気をつ
けて……パソコンにかかっちゃう……んっ、ちょっとかかっちゃっ
てるけど……このくらいなら大丈夫、だよな……んっ、前にも何度
かかけちゃってるし……」

SE: ペニスを搾るような動きに変化

KU_0304

【国木田】

「そうそう、その調子だよ……この感じなら、もうちょっと出るかな
……いっぱいしこしこするから……すっきりしてね、泉くん……」

射精終了。手コキも終了

KU_0305

【国木田】

「はぁ……はぁ……これで全部かな……泉くんのオナニーお手伝いしたら、私の手も汚れちゃった……んっ……」

KU_0306

【国木田】

「この文章だと……口内射精して、ごっくんしてるから……んっ……私もザーメン飲むね……」

自分の右手についた精液を舐める国木田さん

KU_0307

【国木田】

「ちゅぷっ……ぺろっ……んふ、手にいっぱいいついてるの、もらうね、泉くん」

KU_0308

【国木田】

「んちゅ……ぷ……あぁっ、濃い味……いつもの泉くんの味……こんな飲んだら、小説の先輩だって絶対やらしい気持ちになっちゃう……」

KU_0309

【国木田】

「ちゅるっ……じゅっ……ぺろお……んくっ……じゅじゅっ……んぷ……はぁ……はぁ……いっぱい……ザーメン飲んじゃった……ごちそうさまでした……」

KU_0310

【国木田】

「あっ、泉くんも……おちんちに白いのついたままだよ……うん、いつもみたいに……お掃除するから、待っててね……」

■ 3 ↑ 5

国木田さんが泉くんからいったん離れる。

KU_0311

【国木田】

■ 5 ← 7 ← 8

SE: 泉くんも角度を右に移動させる。椅子の音

「そう、ちょっとこっち向いてね……うん、ありがとう。そのくらいでいいよ」

■ 1

泉くんの正面でしゃがみ、顔を股間の近くに

KU_0312

【国木田】

「んんっ……泉くん、まだまだ元気いっぱい……射精したのに全然萎えてないし……もっと出したいよ……上向いてるね」

SE: 勃起したままのペニスを持ち、硬さを確認するように軽くしごく

KU_0313

【国木田】

「待ってて、すぐに気持ちよくしてあげるから……」

亀頭にキスしてから、全体を舐め回す

KU_0314

【国木田】

「ちゅっ……ちゅぱっ、ちゅ……ちゅるるっ、じゅ……れろお……れろんっ、れろんっ、れろんっ、れろれろれろろっっ」

KU_0315

【国木田】

「（お掃除フェラを20秒ほど。舐め中心で時折亀頭にキス）」

KU_0316

【国木田】

「ぶあっ……はぁ……はぁ……泉くんのちんちん、好き……んちゅっ、ちゅ……」

KU_0317

【国木田】

「これで先っぽはきれいになったかな……でも、竿にも精子べっとりだね……おいしそう……」

KU_0318

【国木田】

「泉くんの出したてせーし……いただきまあーす……」

ペニスの根元に軽くキス、そこから一気に先端まで舐め上げる

KU_0319

【国木田】

「ちゅっ、ちゅっ……れろお~~~~っ！　ちゅ！」

口の中に精液が入った状態で口を開け、泉くんに見せている。

KU_0320

【国木田】

「んあ……いっぱいとれた……見て、泉くん……」

■ 3

わざわざ泉くんの左耳に接近して音を聞かせる

口を閉じ、口内で攪拌するようにぐちゅぐちゅさせてから、飲み込む。

KU_0321

【国木田】

「ぐじゅっ、ぐじゅっ、ぐじゅっ……ごくんっ」

KU_0322
【国木田】

「……ふっ、ごっくんの音、聞こえた？」

■ 3
← 1

話しながら耳から離れ、元の位置に戻る

KU_0323

【国木田】

「ふうう……飲んじやった……んっ、口の中……泉くんのせーしの匂いでいっぱい……」

KU_0324

【国木田】

「ふふっ、これじゃもうキスできないね。泉くんは気にしないで、いつもキスしてくれてるけど……」

KU_0325

【国木田】

「うん……私も、キスしてくれるほうがうれしいけど……やっぱり気にしちゃうから……」

KU_0326

【国木田】

「泉くんがいいなら……しょ？ キスしながら、えっち……きつと気持ちいいよ……泉くんが種付けプレスでズボズボしながら、私の口の中を貪ってくれると、いつもすごく興奮しちゃうから……」

KU_0327

【国木田】

「あ、もしかして想像した？ ちんちんぐうぐうって動いたよ」

泉くんの股間に移動していく

KU_0328

【国木田】

「かわいい……もうちよっとお口するね……」

KU_0329

【国木田】

「ちゅっ……ちゅぱっ……ぺろっ、ぺろっ、ぺろっ……今度は尿道に残った分まで吸いあげるから……期待してね、泉くんっ」

ペニスをゆっくりと口内に挿入

【国木田】

【国木田】

【国木田】

【国木田】

【国木田】

【国木田】

【国木田】

58 / 122

KU_0337

【国木田】

「んあ……こんなに出的……」

口を閉じ、そのまま鼻呼吸でザーメンの香りを楽しむ。最後に飲む

KU_0338

【国木田】

「んむっ……ふーっ……ふーっ……ふーっ……ごくんっ」

下品じゃなくてかわいいゲップを。赤ちゃんっぽい感じ。

KU_0339

【国木田】

「はあ……はあ……飲んだよ、泉くん……直接口に出してもらうと、全然違うね……けぶっ」

KU_0340

【国木田】

「ごめん、ゲップ出ちゃった……恥ずかしいなあ、もう。小さいのだったからまだいいけど……」

こちらは口で言ってるだけ。コミカルにかわいい感じで。

KU_0341

【国木田】

「……なあに？　もしかして、げえええつぶ！　って下品なほうがよかった？」

KU_0342

【国木田】

「泉くんが望むなら……してあげたいなって思うけど……あれは練習しないと無理かも。あと、もつとたくさんザーメン飲まなきゃできないよね」

KU_0343

【国木田】

「………んっ、またちんちんびくんってした。これは期待してもいいのかな？」

KU_0344

【国木田】

「もお……泉くんのちんちんはこんなにえっちなのに……これをもつと文章に反映させなきゃね」

KU_0345

【国木田】

「大丈夫、頑張ればきつとできるよ。だってほら、私がこんなに発情しちゃうくらい、えっちなせーし出せるんだから」

…

▼トラック 04

時間経過して数日後。

尚者とも文芸部の部屋にいて、作業中。それぞれノートPCを開き、キーボードを叩いている。

位置関係は今までと同じ。泉くんの正面の席に向かい合わせに座っている国木田さん。

■ 9

SE: 泉くんの打鍵音は快調。乗ってる感じでリズムカルに。

SM: 国木田さんは不調。文章を入力しているというより、カーソルキーで行ったり来たりしてるイメージ。

SE: しばらくして国木田さんの手が止まる

深く長いため息。集中を解いて一気に弛緩する

KU_0346

【国木田】

「ふう〜〜〜……」

SE: なんだろう？ と泉くんの手も止まる

KU_0347

【国木田】

「あ、ごめんね泉くん。なんでもないから気にしないで続けて」

SE: 泉くん、作業再開。ただし、ゆっくり。国木田さんの様子を窺いつつ。

SM: 続けて国木田さんもキーを打ち始める。ゆっくり。しばらくしてまた手が止まる

方歳して後ろに仰け反るイメージ

SE: 少し椅子がガタツと鳴る

KU_0348
【国木田】

「だめだぁ〜〜〜」

KU_0349
【国木田】

「ごめん、泉くん。私、今日は駄目な日みたい」

KU_0350
【国木田】

「書きたいもののイメージはまとまってるんだけど、どうもうまくい
かなくて……」

KU_0351
【国木田】

「うん、今日はえっちなやつじゃなくて、普通の……恋愛小説に挑戦
してるんだけど、思ってた以上に難しくて」

KU_0352
【国木田】

「ねえ、泉くん。よければ私の原稿、見てくれないかな？ 他者の視
点があれば、どこで引っかかってるのか気づけるかもしれないし」

SE: 泉くん、自分のノートPCをパタンと閉じる。

SE: 泉くんが立ち上がり、国木田さんの席まで移動する。国木田さんの
台詞は移動中に。

■ 9と10の間 ↓ 1

KU_0353
【国木田】

「……ありがとう。ごめんね、筆が乗ってるときに邪魔しちゃって」

国木田さんの左斜め後ろあたりに

■ 8

KU_0354

【国木田】

「ここなんだけど……」

横並びになって画面を見る。距離は近い。

■
7

SM: カーソルキーを小刻みに叩き、該当する部分を表示させる

KU_0355

【国木田】

「この……『ただじっと息を潜めて、すべての音を消す。すると、あの人の音だけが私の中で響くのだ。そのはずだった。けれどどうしても抑えきれないノイズが混じってしまう。私の、高鳴る鼓動の音だ』……」

KU_0356

【国木田】

「この……なんていうのかな、好きな人の音を独り占めしたい気持ちはとてもよくわかるんだけど……本当に好きなら、この程度で済むのかなって、悩んじゃって」

KU_0357

【国木田】

「私もずっと、えっちな小説を書くことで、好きって感情を紛らわせていたから……でも、今は違うでしょ？」

KU_0358

【国木田】

「想いを伝えて、好き同士になって、幸せになる。それは思いのほか物語で。だけど実際には些細なことで展開していくんだってことを知っちゃったから……物語の表現がとももどかしく感じて……」

KU_0359

【国木田】

「泉くんはどう思う？ 好きって気持ちが大きかったら、きっと我慢なんてできない。傍にいたら手を伸ばして、抱き締めて、くちづけしたいって。そうするのが一番だって……」

KU_0360

【国木田】

「だから……このキャラクターの好きって言葉が、なんだか薄っぺらいものに感じちゃって……」

KU_0361

【国木田】

「好きという気持ちがあつと強いなら、このキャラクターはこうじゃない。好きって気持ちが表現し切れてないって。少なくとも私はそう感じる」

KU_0362

【国木田】

「だって……今の私の『好き』は、この程度じゃ収まらないから……」

■ 1と8の間

少し角度を変えて向かい合う

:SE: 軽く椅子の音を

KU_0363

【国木田】

「ねえ、泉くん。あの日のこと、思い出してみて」

KU_0364

【国木田】

「私が隠れて書いてた官能小説が……泉くんに見られてしまった日のこと……」

KU_0365
【国木田】

「驚きと、戸惑いと、不安と……でももしかしたらっていう期待もあって……私の奥底に沈殿していた好奇心が、静かに浮上していく、あの感覚」

KU_0366
【国木田】

「……泉くんはどうだった？ あの日のこと、あの瞬間を覚えてる？」

■
1

KU_0367
【国木田】

「私はね……今でも時々思い出すよ……泉くんを抱かれたあの瞬間を……」

KU_0368
【国木田】

「泉くん……」

■
7

泉くんの右耳に急接近して囁く

KU_0369
【国木田】

「好き……」

KU_0370
【国木田】

「好きだよ、泉くん……」

KU_0371
【国木田】

「私は……泉くんのが大好き……」

KU_0372

【国木田】

「あの日はね、慌てちゃって……すごくうれしかったのに、はじめてのセックスだったから、とにかく圧倒されちゃって……」

KU_0373

【国木田】

「だからね……好きって言えなかったの……本当は言いたかったのに……私の気持ち、泉くんに伝えたかったのにね……」

■
1

KU_0374

【国木田】

「結局、次の日になってようやく伝えられたけど、それまではずーっと緊張してて……大丈夫かな？ 泉くん、幻滅してないかな？ 私のこと嫌いになっちゃわないかなって」

KU_0375

【国木田】

「でもね、ふと気付いたの。そんな風に不安になって、怯えてしまうのも……そのくらい泉くんのが好きだからなんだって」

KU_0376

【国木田】

「だから、好きって言うのも恐くなかった。それが私だったから」

KU_0377

【国木田】

「けど、表現者としては、まだまだだった気がする。私の中の『好き』って感情は、もっとずっと大きかったから……」

KU_0378

【国木田】

「何度も好きって囁いても、全然足りないの。足りなくて、もどかしくて、ずっとうずうずしてて……もっと泉くんが欲しい、泉くん私を求めて欲しい、私の全部を奪って欲しいって……浅ましくも望み続けているんだよ……」

KU_0379
【国木田】

「だからね、泉くん……見て……」

SM: スカートをたくし上げ、股間を見せる国木田さん

KU_0380
【国木田】

「好きって気持ちを抑えられないから……下着もはけないくらい、濡れちゃって……」

KU_0381
【国木田】

「こんなおもちゃも……仕込んじゃうくらいなの……」

KU_0382
【国木田】

「うん……ピンクローター……ずっとあそこに入れてたんだよ」

SE: ローターを泉くんに手渡し

KU_0383
【国木田】

「でも、スイッチは入れないで我慢してたの。これは……はい、どうぞ。このスイッチは、泉くんに入れてもらいたいから……」

KU_0384
【国木田】

「お願いしても……いい？ 泉くん、してもらいたいの……」

SE: ローターのスイッチオン。振動音が響きはじめる

KU_0385
【国木田】

「んあっ！ あああっ……泉くん……ありがと……腔（なか）でローターがぶるぶるしてるよ……」

KU_0386
【国木田】

「くうっ……あっ、ああああっ……はあっ……感じちゃう……スイツ
チ入れてすぐなのに……んんんっ……」

KU_0387
【国木田】

「泉くん……こっち来て……ぎゅってして、キスしたい……」

SM…椅子に座った国木田さんを正面からハグ。

■
2

泉くんにしがみついて左頬にキス

KU_0388
【国木田】

「泉くん……好き……ちゅっ……ちゅ……ちゅ……」

KU_0389
【国木田】

「もっと……キス、したい……頬だけじゃなく、唇にも……」

KU_0390
【国木田】

「んちゅっ……ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ……ふぁ……舌も、くっつけ
よ?」

舌を絡めたディープキス

KU_0391
【国木田】

「えろおゝ……ねちよっ、ねちよっ……れるんっ……くちゅっ、ぶ
ちゅ……れろんっ、ねろっ……れろれろろっ……んじゅっ、ぐ
ちゅっ、ちゅうゝゝゝっー!」

KU_0392

【国木田】

「（ディープキスに没頭。20秒ほど。合間に息遣いと『好き』を）」

KU_0393

【国木田】

「ふあっ、はあ……はあ……はあ……」

KU_0394

【国木田】

「たくさん……口の中ぐちゅぐちゅしちゃった……んふっ……」

■ 3

左耳におねだり

KU_0395

【国木田】

「泉くん……ローター、もっと強くして……今の振動じゃキスに負けちゃうよ……」

SE: ローターの強さをアップ。振動音も大きくなる

KU_0396

【国木田】

「んうっっ！ あっ、はあっ……すごい……中でぶるぶるしてるっ……んっ、ふあっ、あっ、あっ、あああああっ！」

■ 1

感じすぎて少し離れる。

SE: ローターを弱める

KU_0397

【国木田】

「はあっ……はあっ……い、いまイッちゃいそうだったよ……んふ……」

KU_0398

【国木田】

「でも、ずっと膣でぶるぶるするだけじゃ、もどかしいし……泉くんにも気持ちよくなって欲しいから……」

KU_0399

【国木田】

「ごめんね、泉くん。このまま一緒に……ね」

SM: 泉くんを押しつけ、仰向けに寝かせる。椅子のガタツとした音。服の音など。

■ 9

泉くんのズボンを脱がし、股間を露出させる

SM: ベルトのバックルを外し、ファスナーを下ろす。泉くんが腰を浮かせたら、パンツごとズボンを膝まで下ろす。足からは抜き取らない。

KU_0400

【国木田】

「ズボン、脱がすからじっとしてて……んっ、ありがとう……うん、少しだけ腰を浮かせて……」

KU_0401

【国木田】

「ちんちん、ばんばんだね……さっきおなかに当たってたから気付いてたよ……」

KU_0402

【国木田】

「んっ……こんなの見ちゃったら我慢できない……入れるよ……」

SE: ペニス挿入

KU_0403

【国木田】

「んんん……………っ……」

KU_0404

【国木田】

「はあああーっ……はあっ、はあっ……んんっ……入っちゃった……泉くんのちんちん……んんっ……」

KU_0405

【国木田】

「まだ……危ない日なのに……生ちんちん挿入しちゃった……しかも、ローター入ってるのに……」

KU_0406

【国木田】

「ど、どう？ 泉くん？ ローター入った状態での挿入……亀頭でぶるぶるしてるの感じてる？」

KU_0407

【国木田】

「私もっ……んんっ！ 一気に奥まで入って……いつもと違う感じ……はあっ、あっ……子宮に響いて……だめっ、妊娠したくなっちゃう……」

KU_0408

【国木田】

「ごめんね、泉くん……でもちよっただけ、このままズブズブさせて……泉くんの生ちんちん……気持ちいい、から……」

:SE: ゆっくり腰を上下させる国木田さん。出し入れする湿った音。

KU_0409

【国木田】

「はあっ……あんっ、あんっ、あんっ……泉くんっ……はああっ……あくっ……んんんっ……はあっ、はあっ……んくうっっ！」

KU_0410

【国木田】

「射精は……我慢してね……いま出したら……赤ちゃん出来ちゃう、から……んんっ……そんなっ、ちんちん反応しないでっ……私を妊娠させたいって思ったでしょ……中でぐうって大きくなったの氣付いたよ……」

KU_0411

【国木田】

「もうっ……学生なのに、そんな……赤ちゃんできたら……困る、よ……おなか大きくして通学なんて……恥ずかしい……」

KU_0412

【国木田】

「泉くんのえっち……そんなに子宮に赤ちゃんのもとびゆるびゆるして……私の卵子受精させたいの？ そんなの……だめ……だめ、だから……んんっ……絶対だめなのに、私っ……おちんちんで氣持いいところ何度もほじられたら……いいよ、って……泉くんのせーしで妊娠……したくなっちゃう……したい……だめ……」

:SE.: 上体を倒し、泉くんに抱きつく

■
1

騎乗位のまま泉くんに抱きつき、正面からキス

KU_0413

【国木田】

「ちゅっ……ちゅっ、ちゅっ……泉くんっ……ちゅっ……」

KU_0414

【国木田】

「泉くんっ……好きっ……ちゅうっ、ちゅ……好きっ……好き、だからっ……」

■
7

KU_0415
【国木田】

「ちゅっ……いいよ、中で出しても……」

SE: ねちっこい腰の動きから、途中で腰の動きが激しくなる。

KU_0416
【国木田】

「ちゅっ……んちゅ……ちゅばっ……泉くん……ちゅ……このまま
せーし出して……んちゅ……私に種付けしよっ……孕む準備、でき
てるからっ……んんっ……ちゅっ、ちゅ……我慢しないでいいよ…
…このまま……気持ちよくなる？ んんっ……そう、泉くんも腰動
かして……奥……ローターが邪魔だけど……いっぱい出してくれた
らちゃんと届くからっ……」

KU_0417
【国木田】

「んんんんーっ！ ああっ！ あんっ！ 激しいよっ、泉く
んっ！ ちゅっ！ ちゅ！ ちゅばっ……じゅるっ……ぺろおっ
……れろれろろっ……んぷっ！ ちゅばっ……はあん！ あっ、
あっ、ああああああっ！」

KU_0418
【国木田】

「泉くんっ……ちゅ……好き……好きなのっ……何度好きって言っ
ても……言い足りないっ……んあっ！ あっ、あっ、すごいっ、奥っ、
グリグリってっ……んんんんーっ！っ！」

KU_0419
【国木田】

「はあっ……はあっ……ねえ……キスしたい……」

■
1

KU_0420

【国木田】

「んちゅう~~~~っ！ ちゅばっ！ ちゅっ！ れろれろれ
ろお~~~~っ！ じゅるるるっ、ちゅう~~~~っ！」

KU_0421

【国木田】

「はあっ……はあっ……泉くん、よだれでべとべとだよ……べろっ……
…もお、こんなに汚して……れろんっ、ちゅっ……私が汚したんだ
よね……んちゅ……ぜんぶきれいに……舐め取るからね……」

KU_0422

【国木田】

「（泉くんの顔を舐めまくる。20秒ほど。途中でローターが強になり喘ぐ）」

KU_0423

【国木田】

「んあっっ！ あっ、あああっ……泉くん、ローター強いよ……ん
んっ……今はだめっ……ううううっ、感じ過ぎちゃうからあっ……
……！」

KU_0424

【国木田】

「あああっ！ はあんっ！ あっ、あっ、もっと……もっと突いて……
…ローターを子宮にねじ込むくらい……いっぱいずんずんし
てえっっー！」

■
3

気持ちよすぎてまた泉くんに抱きつく。今度は顔を左耳近くに。名前を呼びながら喘ぎ、左耳にキスを。

KU_0425

【国木田】

「泉くんっ……泉くん泉くん泉くんっ！！ 私っ……ちゅっ……ん
んっ！ ちゅっ！ ちゅ！ ちゅぶっ……」

KU_0426

【国木田】

「（騎乗位挿入で激しく喘ぐ。20秒ほど。合間に耳にキスを）」

KU_0427

【国木田】

「あつ、ああんっ！ あつ、あつ、もう無理いっ……いくっ……イクイクイクっ……泉くんっ、私イキそうっ……ごめんっ……あああつ！イクっ！ イツちゃうっつー！」

KU_0428

【国木田】

「イクう~~~~~~~~っつー！！！」

SE: ペニスを抜き取る

KU_0429

【国木田】

「はあっ……はあっ……ふああああつっ……ああっ、泉くん……えっ、あああつ……やだ、抜けちゃうっ……んんんんっつー！」

泉くん射精

KU_0430

【国木田】

「ああっつ……泉くんのせーし……外に……んんっ……すごい……びゅるびゅる出てる……」

KU_0431

【国木田】

「はあ……はあ……ごめんね、私……妊娠したい、なんて……だめなのね……」

KU_0432

【国木田】

「ありがとう、最後、外、出してくれて……気持ちよすぎて、おかしくなってたみたい……んんっ……妊娠は……まだ、早いよね……」

KU_0433
【国木田】

「でも、いつか……うん……」

KU_0434
【国木田】

「ちゅっ……泉くん……ちゅっ、ちゅ……好きだよ……大好き……」

かなり小さい囁きで

KU_0435
【国木田】

「だからね……ふたりだけの……内緒の約束……」

KU_0436
【国木田】

「きっと……いつか……ちゅっ……」

……

▼トラック 05

時間経過して数日後。

尚者とも文芸部の部屋にいて、泉くんのノートPCを二人で見ている構図
泉くんは椅子に座り、国木田さんは肩にもたれかかる感じの距離が近い右
斜め後ろ

■ 6と7の間

SE: 国木田さんが後ろから手を伸ばし、カーソルキーを叩いている。し
ばらくして、手を止める

「ふう……」

読み終えて泉くんから離れ、顔が見える位置に。

SE: 泉くんも国木田さんの方を向く関係で少し椅子がズレる

■ 1と8の間

「……泉くんの原稿、拝読しました」

■ 徐々に1に

「全体の率直な感想として……うん、だいぶよくなったんじゃないか
な。上達したねー、泉くん」

「私のアドバイスが役に立ったかどうかはわからないけど、結果とし
て泉くんの文章がレベルアップしたのは、素直にうれしい」

KU_0440

【国木田】

KU_0439

【国木田】

KU_0438

【国木田】

KU_0437

【国木田】

KU_0441

【国木田】

「もちろん、官能小説としてはまだまだ荒削りだし、改良の余地は残されていると思う」

KU_0442

【国木田】

「でも……焦る必要はないよ、泉くん。これからいくつも作品を書き上げていくことで、きっとどんどんうまくなっていくから」

KU_0443

【国木田】

「恋愛表現については私より上手かもね。すごく感情が伝わってきて……読んでドキドキして……ちよつとだけ、羨ましいなって感じちゃった」

KU_0444

【国木田】

「私もね、最初の頃に書いた小説は、こんな風だったなって、懐かしさも感じて」

KU_0445

【国木田】

「技巧もなにもなくて、ただ思いの丈をぶつけただけ。でも、だからこそ迫力があつた。文章に力があつた」

KU_0446

【国木田】

「きっと今の私がなくしてしまった煌めき。それを泉くんの小説に感じたの」

KU_0447

【国木田】

「おかしいね、私の中にある気持ちは、ずっと大きく膨らんでるはずなのに……それがまったく表現できていない」

KU_0448

【国木田】

「数を重ねて小説を書くのは上手になったけど……だからかな、自分に足りないものに気付いてしまった……」

KU_0449

【国木田】

「泉くんの文章を読むたび、そう感じるの。劣等感ではないんだけど……なんていうのかな、この感情は……」

少しの間

KU_0450

【国木田】

「ごめんね、急に変なこと言って。泉くんはなにも悪くないからね」

KU_0451

【国木田】

「でも……そうだなあ、泉くんに手伝ってもらったら、私もかつてのキラキラを取り戻せるかも……」

KU_0452

【国木田】

「ねえ、泉くん……お願いがあるの……今のわたしに力を貸して……」

KU_0453

【国木田】

「あつ、もちろん合作とかじゃないから安心して。文章のトレーニングっていうか……そういうお手伝いをお願いしたいなって」

KU_0454

【国木田】

「ありがとう。きっと泉くんにとってもプラスになると思うから、一緒に頑張ろう」

少しの間

■ 1 ← 7 ← 5 と 6 の間

KU_0455

【国木田】

「言いながら泉くんの背後に回る
「ということ……あつ、泉くんはそのまま座ってて。このP Cを使
わせてもらうから」

SE: 泉くんが椅子の角度を調整し、P Cに正対する

背中から覆い被さる

KU_0456

【国木田】

「では、失礼して……んしょ」

KU_0457

【国木田】

「準備よし。それじゃさっそく始めようか」

KU_0458

【国木田】

「さっき言った通り、文章のトレーニングだよ。泉くんと私で、チャ
ットみたいな掛け合いをして、即興で会話を作っていくの」

KU_0459

【国木田】

「最初は言い出しっぺの私が書くね」

SE: 泉くんの背後から腕を回し、文章を打っていく国木田さん

ギーンを叩くため、手を伸ばし、密着度が増す。口が耳に近づく

■
7

入力しながら読み上げていく

KU_0460

【国木田】

「ええと……『この体勢、ちょっと打ちにくいね。でも、泉くんと
くつつけるなんてラッキーかも』……はい、次は泉くんの番だよ」

■ 5と6の間

手を戻し、軽く身体を引く国木田さん。接触はしたまま

SE:: 泉くんが辿々しく入力していく

KU_0461

【国木田】

「うん……泉くんの台詞のつもりで書いてね……」

泉くんが入力する文章をリアルタイムで読み上げていく

KU_0462

【国木田】

「……『友萌先輩の胸が、ぎゅって押しつけられてる』……って、そうだけど……ごめん、誘惑するつもりはなかったんだけどね……
そっか、官能小説の一部分と考えたら……ありが……」

KU_0463

【国木田】

「じゃあ、次は私の番。んーと……『胸の鼓動、泉くんに伝わっちゃうね。ほら、聞こえる？ さっきからずっとドキドキしてるの』……」

■ 3

姿勢を正し、反対側からむぎゅっと抱きつく

KU_0464

【国木田】

「嘘じゃないよ。ほら、感じて……本当にドキドキしてるでしょ……」

SE:: 文章入力する国木田さん

KU_0465

【国木田】

「『息を潜めて……そう、そのまま背中を音を感じるの……』」

KU_0466

【国木田】

「ごめん、泉くんの番飛ばしちゃった。それに……キーボードの音、邪魔だったよね。静かにしてるから……ちゃんと私がドキドキしてる音、聞いて……」

少しの間

かなり小声で囁く

KU_0467

【国木田】

「泉くん……」

少しの間

KU_0468

【国木田】

「泉くん……まだ……?」

ゆっくり耳に息を吹きかける

KU_0469

【国木田】

「ふうーーーーーっ」

「ふふっ、びっくりした? もう、呼びかけてるのに全然返事しないから……」

KU_0470

【国木田】

■ 3と4の間

「じゃあ、続き、お願いしようかな。泉くんの台詞、書いてみて」

KU_0471

【国木田】

SE: 文章入力する泉くん

KU_0472

【国木田】

「……『友萌先輩の心臓の音、小さいけど聞こえました。でも、それ以上に胸の軟らかさが気になって』」

KU_0473

【国木田】

「もお……そんなにおっぱいが気になるの？ 今は真面目にやってる最中なのに」

■
3

泉くんの左耳をくすぐる

KU_0474

【国木田】

「そんなえっちな泉くんにはおしおき……こちょこちょこちょ」

KU_0475

【国木田】

「どう？ くすぐったかった？ ふふっ、おしおきはこのくらいで……ちゅっ」

KU_0476

【国木田】

「じゃあ、次は私だね。官能小説を意識しつつ……となるとこうかな……」

SE: 文章入力する国木田さん

KU_0477

【国木田】

「『なら、おっぱいが気にならなくなるくらい、すごいことしちゃおうかな』……」

SE: 高速で文章入力する泉くん

KU_0478

【国木田】

「えっ、早い!? 『と言って、友萌先輩が唇を奪った』……唇を…
…奪っちゃうんだ……うん、わかった、いいよ……」

■ 1と2の間

泉くんを引き寄せてキスする

KU_0479

【国木田】

「……んちゅっ」

KU_0480

【国木田】

「はい……ちゃんと唇奪ったよ……」

SE: 高速で文章入力する泉くん

KU_0481

【国木田】

「『先輩、好きです』、って……うん……ありがとう……泉くんが好
きって思ってくれてるの、知ってるよ……」

SE: 高速で文章入力する国木田さん

KU_0482

【国木田】

「『私も……泉くんが好き……』……今更だけど、文字で伝え合う
のって、なんだか照れちゃうね」

SE: 高速で文章入力する国木田さん。途中からコピペする

KU_0483

【国木田】

「『好き。好き好き好き好き好き……えへへ、コピペでい
めんね……でも、打つのが追いつかないくらい、いっぱいいい
……数え切れないくらい、好きが溢れているから……」

KU_0484

【国木田】

「『私もキス、したい』……いい？ 泉くん」

KU_0485

【国木田】

「じゃあ、キス……するね……泉くんにキスしちゃうから……」

KU_0486

【国木田】

「ちゅっ……ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ……大好きっ……ちゅっ、ちゅ
……泉くん、好きい……ちゅ……」

KU_0487

【国木田】

「ごめんね、自分から言い出したのに……文章のトレーニングどころ
じゃなくなっちゃって」

KU_0488

【国木田】

「でも、文字を打つのがもどかしくなるくらい伝えたい気持ちがあ
るってわかったよ。きれいな文章もいいけど、リビドーに任せて、
文字を書き連ねていく……書き手の気持ちを、文章に乗せて……
もっとメリハリをつけていったら……私の文章も、より魅力的にな
るんじゃないかなって……」

■
2

:SE::文章入力する泉くん

KU_0489

【国木田】

「え？ 『先輩の文章は……いつも魅力的でした』？ 泉くん、こ
れって……」

KU_0490

【国木田】

「『先輩の書く小説が……好き』……って……そんなこと言われちゃったら、私……」

KU_0491

【国木田】

「ねえ、泉くんは覚えてる？　これが、なんの文章のトレーニングだったかって」

KU_0492

【国木田】

「官能小説の……文章なんだからね……泉くんの気持ち、ぶつけられちゃったら私だって、その……えっちな気持ちになっちゃうでしょ……」

■
1

KU_0493

【国木田】

「私は泉くんが好き……大好きです……」

KU_0494

【国木田】

「だから……ねっ……泉くと、一緒に気持ちよくなりたい……」

:SE: 国木田さんが泉くんから離れ、立ち上がる。

■
2

KU_0495

【国木田】

「んっ……今日はどうしょっか……」

シックスナインという単語を出すときは恥ずかしそうに、やや小さく

KU_0496

【国木田】

「じゃあ……シックスナイン、で……いっぱいじめて……」

SE: 泉くんが床に仰向けになる。

KU_0497

【国木田】

「あ、泉くんが下になってくれるんだ……じゃあ、上……乗っかるね……」

■ 9

シックスナインの体勢に移行。泉くんの股間付近に国木田さんの頭。ちよつと距離が遠くなる。

SE: パンツの上から国木田さんのあそこをすりすり

KU_0498

【国木田】

「んんっ……重かったら言ってね……んあっ、あっ……そこっ、いきなり……んんんっ!」

KU_0499

【国木田】

「やあっ……そんなスリスリしたら……内側からじわって来ちゃう……もう濡れてるのバレちゃうっ……」

SE: 泉くんが割れ目をスリスリ。湿ってきた音

KU_0500

【国木田】

「はあっ……はあっ……はあっ……んんっ、あっ、クリ? クリだめっ、やっ、やああっ、そこっ、感じ過ぎちゃうからあああっ!」

KU_0501

【国木田】

「んうっ！ んっ！ んんんーっ！ もおっ、こっちだって……」

SE:ズボンのファスナーをゆっくり下ろしていく

KU_0502

【国木田】

「泉くんのちんちん、もうおっきい……ベルト外さないと無理かな…」

SE:ベルトのバックルを外し、ペニスを取り出す

KU_0503

【国木田】

「んふ……ちゅ……ちゅっ、ちゅっ……ぺろ……んちゅ……」

SE:フェラと同時に手コキも開始

KU_0504

【国木田】

「泉くんのここ、敏感だからっ……んっ……れろお……れろれろれろっ……じゅるっ、ぶちゅっ……じゅぱっ、んじゅっ……」

KU_0505

【国木田】

「はぁ……はぁ……えっちなちんちん……好き……ちゅっ……もっと激しく……するね……」

ゆっくり口内に挿入。そのまま音を出しながら出し入れする

KU_0506

【国木田】

「むちゅっ、ぶじゅるるるるるーっ……だゅっ！ じゅぱっ、じゅぱっ、じゅぱっ、ぢゅぱっ、ぢゅぱっ……」

KU_0507

【国木田】

「（フェラチオを30秒ほど。最初はゆっくりで、徐々にペースアップ。ラストで激しくバキュームする）」

喉奥に当たって軽くえずく。苦しすぎる感じはNGで、ライトに。ペニスを口内から吐き出し、荒い息を吐く

KU_0508

【国木田】

「んうーっ！っ！ んぐっ！ ぶっ！ ぶあっ！ はあっ、はあっ、はあっ……」

KU_0509

【国木田】

「泉くんも……いろいろしていいんだよ……んっ……というか、してほしい……」

SE: アナルに指を挿入していく

KU_0510

【国木田】

「あっ、やつ、そこっ、んんんっ……おしり……ああっ、入っちゃう……指入れられちゃうっ……」

KU_0511

【国木田】

「はあっ……はあっ……まさかそっち、なんてっ……んっ……いいけど……ねえ、前も……寂しいから……」

SE: おまんこにも指を挿入し、激しく出し入れ

KU_0512

【国木田】

「ああっ！ すごっ！ だめっ、感じちゃうっ！ ああっ！ あっ！ あっ！ あああーっ！っ！」

亀頭に何度もキス

KU_0513

【国木田】

「泉くんっ……泉くん泉くんっ……ちゅっ……ちゅ！　ちゅっ！　ちゅっー！」

KU_0514

【国木田】

「あんっ……あっ……わたしばかり感じちゃう、よっ……泉くんも……気持ちよくなってっ……」

KU_0515

【国木田】

「ちゅっ、ちゅっ、ちゅううっ！　れろおっ……れろっ……ぺろぺろ……」

KU_0516

【国木田】

「はぁむっ……むちゅううっ！　にゅゅっ、にゅゅゅゅ……ちゅっ、ぶちゅっ、ぶちゅっー！」

KU_0517

【国木田】

「（ペニスを口内で激しく出し入れ。20秒ほど。切羽詰まった感じ。愛撫されているので合間にその反応を）」

口内射精されている

KU_0518

【国木田】

「んんうー……っ！　んぶっ！　ぶぶっ！　んぐうううっー！」

じっとしてそのまま受け止める。飲み込まず、口内に溜める

KU_0519

【国木田】

「んふうううっ……んんっ……んっ……」

KU_0520

【国木田】

「んむう!!? んぐう! んんっ! んっ! んぶっ! んん
ん—————っ!」

絶頂後、息を整える

KU_0521

【国木田】

「ふうう————っ……んぷっ……ふうう……ううっ……」

落ち着いてから、ゆっくりペニスを口内から引き抜く

KU_0522

【国木田】

「ぷっぷぷぷぷ~~~~~~~~ちゅぽっ」

SE: 起き上がり、泉くんの近くへ移動するのを音で表現。服や上履きなど。

■
1

KU_0523

【国木田】

「ふう————っ……ふうーっ……ふうーっ……」

SE: 両掌で皿を作って、そこに口内の精液を吐き出す

KU_0524

【国木田】

「んうええええ……」

KU_0525

【国木田】

「はぁ……はぁ……見て、泉くん……こんなに出了よ……」

KU_0526

【国木田】

「もお、最後のほう、びっくりしたんだからね……おしりに激しくするから……口の中にザーメンびゅるびゅるされながら……私もイッちゃったでしょ……」

KU_0527

【国木田】

「……ううん、怒ってないよ。すごく……気持ちよくしてくれて……嬉しかったから……」

KU_0528

【国木田】

「出したてザーメン、目の前で飲んであげるね……」

掌の精液に口をつけ、すすり上げていく

KU_0529

【国木田】

「ちゅぷっ……じゅるるっ、ちゅうううっ……っ……」

KU_0530

【国木田】

「じゅるっ、ぶじゅっ……べろお……れろぶっ、じゅっ……べろお……べろお……んぷっ……」

口内に精液を溜めたまま、微笑む

KU_0531

【国木田】

「んぷっ」

KU_0532

【国木田】

「ぐちゅっ……ぐっちゅ、ぐっちゅ、ぐっちゅ……ごくんっ」

KU_0533

【国木田】

「はぁぁ……全部飲んだよ。泉くんの濃い味がして、おいしかった……」

KU_0534

【国木田】

「あっ！ い、泉くんっ！？ そんなっ……ごつくんした後、ぎゅううって抱き締められたら、わたしっ……」

泉くんにキスされて驚く

KU_0535

【国木田】

「んちゅっ！ っちゅ！？ んう~~~~っ！」

強引に舌をねじ込まれ、口内を舐め回される

KU_0536

【国木田】

「だめだよっ、精液飲んだばかりでっ……んむっ！ ちゅぶっ！ ちゅっ、ちゅばっ、じゅくっ……じゅぷぷっ！ れろれろれろっ」

KU_0537

【国木田】

「ぷあっ！ はあはあはあ……もお、泉くんってば……自分のなんておいしくないでしょ……」

■ 1←7

話しながらそっと泉くんを抱き返す。顔を右耳に近づけていく。前半で接近、後半で囁き

KU_0538

【国木田】

「そんな情熱的にされたり、私だって……もっと好きになっちゃうよ……」

■ 7

KU_0539

【国木田】

「泉くん……好き……好き好き好きっ……大好きっ……」

KU_0540

【国木田】

「ちゅっ……ちゅっ、ちゅっ、ちゅ！」

■ 1と8の間

顔が見える程度に位置を調整。耳から離れる

KU_0541

【国木田】

「ごめんね、嬉しすぎて興奮しちゃったみたい……だからね、そのお……」

KU_0542

【国木田】

「部室じゃできないセックス……したいな……激しいやつ……」

KU_0543

【国木田】

「うん……いつもごめんね、えっちな先輩で……でも、泉くんのこと、もっともっと気持ちよくするから……」

■ 7

右耳に急接近。誘惑するように囁く

KU_0544

【国木田】

「このあと……好きなだけハメていいよ……もう、大丈夫だからゴムなしで、生ハメ生中出し……いっぱいしてね……」

右耳にキス

KU_0545
【国木田】

「ちゅっ」

.....

	▼トラック 06
	時間経過して数日後。 尚者とも文芸部の部屋にいて、作業中。それぞれノートPCを開き、キーボードを叩いている。 位置関係は今までと同じ。泉くんの正面の席に向かい合わせに座っている国木田さん。 SE: 国木田さんがキーボードを叩く音。最後にエンターキーをスパンと叩いてフィニッシュ。 ■ 9
KU_0546 【国木田】	「……うんっ、こんな感じかな」
KU_0547 【国木田】	「ふう~~~~っ、ひとまず一旦ここまです」
	少しの間
KU_0548 【国木田】	「泉くん？ うん、ちょうどラストまで書き終わったところだから」
KU_0549 【国木田】	「とりあえず初稿完成かな。ここからが大変なんだけど、一区切りつてことで」
KU_0550 【国木田】	「あっ、いいんだよ別に。お祝いとか、そんな大袈裟なものじゃないから」

KU_0551

【国木田】

「まあ……初稿の段階でも、なかなかよく書けたんじゃないかなって、自分でも思うんだけどね」

KU_0552

【国木田】

「これも泉くんのおかげかな。詰まったとき相談に乗ってくれたし、こんなふうに同じ場所で書いてくれてるだけで励みになるから」

KU_0553

【国木田】

「泉くんのキーボードの音が聞こえてくるとね、ああ、泉くん頑張ってるんだなー、私も頑張らなきゃーって。うまくいってないときに、背中を押してくれたから……」

KU_0554

【国木田】

「だからね、ありがとう、泉くん。いつも感謝してます」

泉くんが立ち上がり、国木田さんのところに行く。

SE: 泉くんが立ち上がった際の椅子の音。

■ 9 ↓ 2

SE: 泉くんに画面を覗かれそうになって慌てる国木田さん。椅子がガタツと鳴る。

KU_0555

【国木田】

「泉くん？ あっ、駄目だよ、まだ駄目。初稿って言ったでしょ？ まだ人に見せられる段階じゃないの」

SE: 国木田さんが急いでノートPCを閉じる。

■ 1

KU_0556

【国木田】

「たくさん協力してもらったから、泉くんにもチェックしてもらうつもりだけど、完成してからね。ここから見直しして、細かい文章の修正をかけて、誤脱もチェックして……とにかく、まだまだブラッシュアップするつもりなんだからっ」

KU_0557

【国木田】

「半端に興味惹くようなこと言っちゃってごめんね。でも、初稿完成だーってうれしくなっちゃって、つい」

KU_0558

【国木田】

「脱稿したときがうれしいのはもちろんだけど、一番達成感があるのは初稿が完成したときなんだよね。自分が紡いだ物語がエンディングに辿り着く、最初の瞬間だから」

KU_0559

【国木田】

「ちなみに、次に達成感あるのは印刷した本を手にとったとき。あれもすっごく嬉しいんだよね」

KU_0560

【国木田】

「泉くんも……知ってるでしょ、この気持ち」

KU_0561

【国木田】

「はじめての作品、はじめての文集。きっと泉くんにとっても宝物になる。私もね、はじめての作品はずっと大切にしてるんだよ」

KU_0562

【国木田】

「文章も構成も駄目駄目だから、恥ずかしいことだらけなんだけどね。もちろん、泉くんには絶対に見せません」

KU_0563

【国木田】

「あつ、バックナンバー探しちゃ駄目だよ。ほんと恥ずかしくて人様に見せられる代物じゃないんだから」

KU_0564

【国木田】

「あとで振り返ると、みっともなくって、恥ずかしくて……でも、すごく大事。泉くんの作品もそうなるはずだから、大切にしていね」

KU_0565

【国木田】

「さて……」

SE: 立ち上がる国木田さん

KU_0566

【国木田】

「今日の部活は、いったんここまでにしようか」

そっと泉くんに抱きつく。左肩に顎を乗せるような配置

■ 3

泉くんの左耳に囁き

KU_0567

【国木田】

「初稿完成記念ということで……泉くんのしたいこと、させてあげるね」

■ 1

KU_0568

【国木田】

「最初はキス……が、いいな……」

向かい合ってキス。じゃれ合うように唇を押しつけ合う

KU_0569

【国木田】

「ちゅっ……んふ、ちゅ……ちゅうっ、ちゅ……」

KU_0570

【国木田】

「ふう……ふう……んん……泉くん……あ……」

KU_0571

【国木田】

「私はキスしてるから……その間に、脱がせて……」

キスしながら国木田さんの制服を脱がせていく。脱がせる流れは同人誌1
作目の初えっち参照。

ブラウスのボタンを外していく←ブラウスの前を開き胸を露出させる。ま
ずはここまで。キスしながらなのでゆっくりめで。

SE: 国木田さんの制服を脱がせる音。内容は上記参照

KU_0572

【国木田】

「(ソフトなキスを15秒ほど。唇を押しつけて、音を立ててちゅっ
とさせる感じでかわいく)」

KU_0573

【国木田】

「おっぱい……出ちゃったね……泉くんはどうしたい?」

KU_0574

【国木田】

「挟んでほしい……? いいよ、おっぱいですりすりしてあげるから、
椅子に座ってもらえる?」

SE: 国木田さんが自分の椅子を泉くんに差し出す。背もたれを持ってガ
ラッと移動させる

SE: 泉くんが自分でズボンを脱ぎ、椅子に腰掛ける。ベルトを外す音←
ファスナーを下ろす音←パンツごとズボンを下ろし、脱ぐ音←椅子に座る
音

KU_0575
【国木田】

「わあ、もうピンピンだね……泉くん、元気……」

KU_0576
【国木田】

「待たせてごめんね、今すぐ……ここに挟んであげる……」

SE: 国木田さんが泉くんの前に屈み、ペニスをおっぱいに挟む。音はするの？

KU_0577
【国木田】

「んっ……おちんちん熱い……冬なのにポカポカだね……」

KU_0578
【国木田】

「じゃあ、すりすりするけど……して欲しいことがあったら言っ
ね」

SE: パイズリ開始。ゆっくりスリスリ

KU_0579
【国木田】

「んっ……ふ……はあっ……んっ……んくっ……ふうっ……んっ……」

KU_0580
【国木田】

「（パイズリしている最中の息遣いを15秒ほど）」

KU_0581
【国木田】

「あ……ローション使えばよかったかな……どうする？ 取ってくる？
キャビネットに隠してあるやつ、まだ残ってたはずだけど……」

SE: パイズリ停止

KU_0582
【国木田】

「うん……ここで中断するのも……ね……じゃあ、私の睡で……」

舌を突き出して胸の谷間に唾液を垂らす

KU_0583
【国木田】

「んえー……」

KU_0584
【国木田】

「んっ、見ちゃ駄目……恥ずかしいでしょ、もう……」

KU_0585
【国木田】

「んえー……」

KU_0586
【国木田】

「ふう……いっぱい出た……このくらいなら……んっ、十分みたい……」

:SE: パイズリ再開。ここからは唾液有り

KU_0587
【国木田】

「んっ……くちゅくちゅいってるね……さっきより動かしやすくなっ
たよ……」

KU_0588
【国木田】

「泉くん、のっ……おちんちんもっ……気持ちよさそうに反応してる
……硬くて、反りもすごい……」

KU_0589
【国木田】

「もっと……激しくするね……出したくなったら、いつでもいいから
……」

KU_0590

【国木田】

「んっ……んっ……んんっ……はっ……あぁっ……んふ……んっ……
んしょ……しょっ……んんっ……」

KU_0591

【国木田】

「（パイズリに没頭する息遣いを15秒ほど。速度上がってる状態を
イメージ）」

KU_0592

【国木田】

「あっ、あっ、あぁっ……泉くんのちんちんっ……すごいっ……亀頭
がパンパンに膨らんで……私の唾でぬらぬらしてて……かっこいい
よ……」

パイフェラに移行。亀頭にキス、舐めからの吸引

KU_0593

【国木田】

「好きっ……泉くんのちんちん、好きい……ちゅっ、ちゅ……ぺろっ、
ぺろぺろぺろっ……ちゅっ！ちゅっ！ちゅうう~~~~っ！！」

KU_0594

【国木田】

「れろっ……れろんっ……ねちよ……ちゅぷっ……んんっ……あぁっ
……ちんちんの味……んんっ……少しカウパーも出てて……ん
ちゅっ……ちゅ……」

KU_0595
【国木田】

「せーしの味、は……ただけど……そろそろだよね……泉くん、もうすぐ出ちゃうよね……何度もしたからわかるよ……玉のどこ、きゅうってなって来てるし……いいよ……出して……泉くんのせーし出して……ザーメン……ザーメン欲しい……このまま私の口に……飲ませて……泉くんのザーメン飲ませてっ……」

KU_0596
【国木田】

「泉くんのえっちな小説に出てくるヒロインみたいに……ドスケベで……淫乱な……メスだから……部屋なのにすっかり発情して……おしり振ってるの……」

KU_0597
【国木田】

「ねえ、泉くん、お願い……もっと激しく、したい……して欲しい……」

KU_0598
【国木田】

「私のスイッチ押して……喉の奥……泉くんのちんちんで押してっ……」

KU_0599
【国木田】

「ちんぽっ……かったいちんぽねじ込んで、私の口を犯してっ……お願い泉くんっ!!」

泉くんに頭を抱えられて、喉奥にペニスを押し込まれるイラマチオ

KU_0600
【国木田】

「んぶっ！ んぐう……………っ！ ぶぶっ！ んぶうっ！」

KU_0601

【国木田】

「んごっ！ んぼっ！ んぼっ！ んぼっ！ んぼっ！ んぼっ！
ぶーーーーっ、んぶうつっ！」

KU_0602

【国木田】

「（激しくイラマチオされる。20秒ほど。苦しうだけど嫌がつて
はおらず、うれしそう。汁気たっぷりのイメージ）」

喉奥で射精

KU_0603

【国木田】

「んぶーーーーっ！ んうつ！ んごっ！ んんんっ！
んうーーーーっ！」

KU_0604

【国木田】

「（喉奥での射精をじっと受け止める。15秒ほど）」

射精終了。ペニスは咥え込んだままで息を整える。もう苦しそうな感じは
ない

KU_0605

【国木田】

「んぶーっ……ぶーっ……ぶううーっ……」

吸い付いたままゆっくりペニスを引き抜く。口内の精液はそのまま。

KU_0606

【国木田】

「んぶう~~~~~~~~ちゅぽんっ！」

国木田さんが立ち上がって、泉くんの右耳に口を近づける。

SF: 国木田さんが立ち上がって泉くんにのしかかる音。できれば。

■
7

KU_0607

【国木田】

口内の精液をぐちゅぐちゅさせる。うがい風。
「ぐくぐくぐくぐくぐく……」

KU_0608

【国木田】

少しの間を置いてから、音を立てて一息に飲み干す

「……………ぐくんっ」

KU_0609

【国木田】

「はぁぁぁーっ……はぁ……はぁ……すっごい、味………においも………泉くん、ザーメンごちそうさまでした……」

KU_0610

【国木田】

「今日のは特別に濃かったみたい……んっ……食道から唇まで、すごいにおいだよ……」

KU_0611

【国木田】

「ん？ 気になる？ じゃあ、恥ずかしいけど、ちょっとだけ……」

■
1

泉くんを抱きついたまま、真正面で息を吹きかける

KU_0612

【国木田】

「はぁぁ……っ」

KU_0613

【国木田】

「……どう？ すごかったですよ？」

KU_0614

【国木田】

「こびりついて取れないね……そこにあるお水取ってくれる？」

泉くんが机の上のミネラルウォーターのペットボトルを取り、国木田さんに渡す

■ 1と8の間

SE: 開封済みのペットボトルの蓋を取る

ゆっくり水を飲む。

KU_0615

【国木田】

「ごくっ……んくっ……んくっ……ふうう……」

KU_0616

【国木田】

「ありがとう、はい、返すね」

KU_0617

【国木田】

「まだ残ってる気がするけど……このくらいなら、大丈夫かな……に
おい残ってたらごめんね、泉くん」

泉くんにキスする

KU_0618

【国木田】

「んちゅっ、ちゅっ……ちゅぷ……」

KU_0619

【国木田】

「ふう……ふう……ど、どうかな？ このままキスしても……い
っっ」

KU_0620

【国木田】

「ん、よかったあ……じゃあ、もつとキス……するね……泉くん……
んんっ、ちゅ……ちゅぷっ、じゅっ……ちゅううっ、ちゅっ、
ちゅっ、ちゅっ……」

KU_0621

【国木田】

「泉くんっ……泉くんっ……んんっ、もつと……もつと舌……欲しい
……泉くんっ……」

ディープキスに移行。舌を絡め合い、吸う

KU_0622

【国木田】

「じゅぐっ、にゆるっ、にゆるるっ、れろれろれろおっ……
ちゅぶぶっ、むちゅっ……ちゅうっ！ じゅっ！ じゅるるる
るっ……！」

KU_0623

【国木田】

「はあっ……はあっ……ごめんね、こっちも……放っておいたら可哀
想だね……んっ、手でしこしこしてあげるから……このままもっ
と……キス……お願い……」

SE: 右手で手コキ開始。唾液と精液まみれなのでぐちゅぐちゅ。

KU_0624

【国木田】

「んんっ……すごい……セックスした直後のちんちんみたい……どろ
どろのぐちゃぐちゃで……やらしくなってるよ、泉くん……」

KU_0625

【国木田】

「私にハメてるつもりで……このまま感じて……んちゅっ、ちゅっ……
……じゅぶんっ、ぐじゅっ……べろっ、べろっ、べろっ……」

SE: 手コキの速度少しアップ

KU_0626

【国木田】

「（手コキしながらディープキス。30秒ほど。緩急をつけて、合間に息継ぎもお願いします）」

キスを中断。

SE: 手コキを小刻みな動きに

KU_0627

【国木田】

「んぶあっ！ はあっ、はあっ、はあっ……泉くんのちんちんっ……ちんぽえろい……こんなにやらしいペニス、興奮しちゃうつっ……」

手コキしたまま抱きつく

■
7

泉くんの右耳に熱っぽく告げる

KU_0628

【国木田】

「泉くんっ、好きっ……」

右耳にキスしたり舐めたり。合間に好き。

KU_0629

【国木田】

「んちゅっ、ちゅっ、ちゅっ……好きっ……泉くん、好きいっ……ちゅっ、ちゅるっ、ぺろっ、ぺろっ、ぺろおっ……好き……」

SE: 手コキの速度アップ。射精させる激しい動き

KU_0630

【国木田】

「いいよ……このまま気持ちよくなってね……射精したかったら……我慢しないで出して……私の手でザーメンびゅーびゅーして見せて……泉くんがかっこよく射精するところ、見たい……」

KU_0631

【国木田】

「んちゅっ……れろれろれろお……ちゅぱっ、ちゅっ、ちゅっ……好き……泉くん、大好き……ちゅっ、ちゅっ、ちゅ……せーし出して……私で射精して……ちゅっ……出して……んちゅ……ザーメン……ちゅぱっ、じゅ……ぺろ……」

イケ出せは命令的な感じではなく、出しちゃって感じのニュアンスでかわいくお願いします。

KU_0632

【国木田】

「出して……ちゅ……私の手で気持ちよくなって……イッて……泉くん……ちゅ……イケ……出しちゃえ……せーし……出せ……出せ出せ出せ……泉くんっ……」

急に位置を変えて泉くんの唇を奪う

■ 1

激しくディープキス

KU_0633

【国木田】

「んん……っ！ ちゅぶっ！ ちゅっ！ ちゅっ！ ちゅ！ 泉くんっ、泉くん！！ にゅぶうっ！ れろぶっ！ じゅぶっ、じゅるるっ……」

KU_0634

【国木田】

「（貪るような激しいティープキスを15秒ほど）」

射精

SE: 射精中は手コキをゆっくりにしてしごき出すようにディープキスの勢いもゆっくりになる

KU_0635
【国木田】

「んうーっ！ んう！ んっ！ んむむっ……ちゅぶっ……
じゅる……ねろお……れろぶ、ちゅ……」

SE: 手コキ終了していく

ギス終了。唇を離す

KU_0636
【国木田】

「ふうう……んう……はぁ……はぁ……はぁ……いっぱい……出たね
……気持ちよかった？」

KU_0637
【国木田】

「んっ、すごい距離飛んでる……こんなに勢いあったんだ……出すの
2回目なのにすごいね……」

KU_0638
【国木田】

「3回目の分……残ってるかな……？」

KU_0639
【国木田】

「んん……射精したのに硬いままだね……この調子なら、まだできそ
う……」

かわいくおねだりするイメージでお願いします

KU_0640
【国木田】

「泉くん、私……うん……私にも……出して欲しい……です……お願
いしてもいいかな？」

KU_0641
【国木田】

「ちゅっ……ありがと……大好きだよ……ちゅ……」

KU_0642

【国木田】

「ちゅっ……ちゅ……ちゅ……」

右耳に囁きおねだり

KU_0643

【国木田】

「うん……今日はその、つけなくていい日だから……そのままです……
ね……」

KU_0644

【国木田】

「泉くん……こっそりザーメン……私の子宮に注いで……」

KU_0645

【国木田】

「ちゅっ」

国木田さんを抱きかかえながら立ち上がり、床に押し倒す

：SE：衣擦れの音

■ 9

KU_0646

【国木田】

「あっ、やあっ！」

KU_0647

【国木田】

「い、泉くんっ……んん……」

KU_0648

【国木田】

「見ないで……その、触ってないのに、こんなに濡れてて……恥ずかしいっ……」

SE: パンツを横にズラす

KU_0649

【国木田】

「っっっっ！ んうっっ！ はあっ、あっ……」

SE: ペニスを挿入していく。かなり濡れている。

KU_0650

【国木田】

「んうっっっっ！ んふっ！ ううっ！ はあっ、あっ、あああ……ちんちん……入っちゃった……」

KU_0651

【国木田】

「前戯もしてないのに……こんなあっさり、入って……ナカぬるんぬるんなの、泉くんバレちゃった……」

KU_0652

【国木田】

「うん……何度もしたから……条件反射、みたいなもので……たぶん……部屋にいただけで、その、すこし濡れちゃうの……」

KU_0653

【国木田】

「今日もまた……泉くとセックスするのかな……して欲しいな……って……思っちゃって……期待して……ムラムラして……泉くんのちんちん……ちんぽ欲しいって……」

KU_0654

【国木田】

「スケベな先輩でごめんね……妄想してばかりで、後輩の泉くんに犯してもらうこと考えてて……もっと真面目な先輩でいたいのに……駄目なの……ごめん……ごめんね……」

KU_0655

【国木田】

「んっ……ちんぽ膨らんだ……今ので興奮してくれたの？ それとも……私のおまんこ、気持ちよかったから……？」

KU_0656

【国木田】

「どっちでもいい……んっ、好き……泉くん大好き……挿れただけじゃ寂しいよ……うん……動いて……泉くんのかっこいいちんぽで私のおまんこズボズボして……いじめてっ……」

KU_0657

【国木田】

「泉くんっっー!!」

:SE: 激しい出し入れを開始する

KU_0658

【国木田】

「ああああっ!! はあんっ! あくっ! んううっ!!」

KU_0659

【国木田】

「ああんっ! あっ、あっ! 泉くんっ! んんっ! ああっ! はあっ、あっ、あっ、ああああああっ!!」

KU_0660

【国木田】

「（激しく突かれて喘ぐ。20秒ほど）」

KU_0661

【国木田】

「んうー……っ!! はあっ、はあっ……今、すこしイッちゃった、よ……泉くん……」

KU_0662

【国木田】

「んんっ、もっと……ぎゅうっして……私を押し潰すみたいに……強く抱いてっっー!!」

密着して抱き合う。泉くんの左耳付近に国木田さんの口が来る

■
3

KU_0663

【国木田】

「はあんっ！ あっ、あっ、うれしいっ……ぎゅって……もつとぎゅうってしてっ……泉くんっ……泉くん泉くん泉くんっっ！」

近くにあった左耳にキスしたり耳たぶはむつとしたり吸ったり。

KU_0664

【国木田】

「ちゅっ、ちゅ……べろ……んううっっ！ はむっ、んむんむっ、ちゅううっ……ぷあっ！ ああっ、奥っ、奥らめえっ！」

KU_0665

【国木田】

「（抱き合いながら激しくセックス。30秒ほど。泉くんの左耳にキスしたり舐めたりするものの、気持ちよくなって喘いでしまう。後半になるにつれ、喘ぎがほとんどになる）」

KU_0666

【国木田】

「んあっっ！ ああっ！ あっ！ あっ、あくうっっ！ 泉くんっ……私っ……私もうっ……イキそうっ……んんんんんんっっ！ 駄目……おっきいの来る……来ちゃうっ……泉くんっ……泉くん泉くん泉くんっっ！」

KU_0667

【国木田】

「もつとぎゅうって……抱いて……はああんっ！ あっ、あっ、やあっっ！ イクっ！ イツちやうっっ！ 泉くんっ！ 好きっ！ 好き好き好きっ！ ああっ、あんっ！ あんっ！ あああんっ！」

KU_0668
【国木田】

「もう駄目っっ!! 泉くんっ……来てっ……せーし出して……射精っ……私にザーメン出してえっっ!!」

KU_0669
【国木田】

「んううーっっ!! あくっ! ふううっ! 無理いっ……イクうっ……イクイクイクっっ!!! もうっ……イッちゃうううっっ……!!!」

KU_0670
【国木田】

「んちゅっ! ちゅっ! ちゅっ! ちゅうううっ!! 泉くんっ……泉くん泉くん泉くんっ……んああああーっ!! はあっ、あんっ! 好きっ! 好き好き好きいっっ!! 泉くんっ!! 好きいっ……っ!!」

国木田さん絶頂と同時に泉くんも膣内射精

KU_0671
【国木田】

「んくう……はあっ……っ!! んううっ!! んっ!! はあっ……はあっ……んああ……泉くん……好きい……」

KU_0672
【国木田】

「ふああ……はあっ……ああっ……泉くんも……出してるね……んっ……うれしい……ありがとう……一緒にイッてくれて……」

KU_0673
【国木田】

「私の奥で……びゅっ、びゅっ、て……いっぱい出してる……うんっ……そのまま……全部出して……気持ちよくなってね……」

KU_0674
【国木田】

「泉くん……ちゅ……ちゅ……ぺろ……んちゅ……ちゅ……」

KU_0675

【国木田】

「気持ちよくしてくれて……ありがとう……ちゅ……んっ……ちゅ……
……泉くん……好き……ちゅ……もつと……いっぱい……ちゅ……
…」

KU_0676

【国木田】

「はぁ……はぁ……はぁ……おなかのどこ……泉くんのせーしでうれ
しくなっちゃってるみたい……んふっ、ちゅ……ちゅ……」

KU_0677

【国木田】

「これからも……よろしくね……こんな先輩だけど……もつと……
ずっと……」

KU_0678

【国木田】

「泉くん……ちゅっ」

……

▼トラック 07

時間経過して数日後。

尚者とも文芸部の部屋にいて、泉くんは国木田さんの席に座ってノートパソコンを操作している

国木田さんは電気ケトルのところでコーヒーを入れている。

■ 15

SE: 泉くんがカーソルキーを叩きながら画面をスクロールさせている。
ゆっくり。

SE: マグカップにお湯を注ぐ国木田さん。2人分。

SE: お盆でカップを運ぶ。泉くんの右手近くに置く。

■ 6

「お待たせ、泉くん」

KU_0679

【国木田】

SE: 泉くんの手が止まる

KU_0680

【国木田】

「それで……どう、かな？ 軽く読んでみた感想は？」

KU_0681

【国木田】

「初稿をアップしたときは、自信があっただけだね……推敲を重ねるたび、本当にこれでいいのかって、自信がなくなって来ちゃって……」

泉くんが国木田さんのほうを向く

SE: 少し椅子が動く音

■ 1と8の間

KU_0682

【国木田】

「うん……泉くんも自分の原稿で忙しいのに……手伝ってくれてありがとう」

KU_0683

【国木田】

「完成した原稿は……やっぱり自分以外の人に読んでもらった方がいいんだけど……でも、今回はそれ以上に……」

KU_0684

【国木田】

「泉くん……読んで欲しかったの……」

■
1

KU_0685

【国木田】

「泉くんは……私に影響されて……その……書いてくれたよね、官能小説……」

KU_0686

【国木田】

「作品としての出来は……まだまだこれからだなあって感じたけど……でも不思議とね、そんなこと以上に、私には強く響くものがあった……」

KU_0687

【国木田】

「それってきつと……泉くんが私のために……私に向けて……私を想って……書いてくれたからなんだよね……」

KU_0688

【国木田】

「私に向けたメッセージ、だから……すごくすごく……伝わったの……それがうれしくて……心地よくて……だからね……」

KU_0689

【国木田】

「いいなあ、って思っちゃった……泉くんのこと、羨ましいなあって……私も……こんな小説、書いてみたいなあって……」

KU_0690

【国木田】

「それで出来上がったのがこれ……泉くんに向けた……泉くんに捧げるメッセージだよ……」

KU_0691

【国木田】

「……どうかな？ 伝わってくれたかな？ って……いつも以上に心配しちゃって……泉くんの心に届いたら……いいんだけど……」

KU_0692

【国木田】

「うん……ラブレターにしては、ちょっと長編すぎるかもね。お互いに反省しなきゃ」

軽い間を。空気を切り替える

KU_0693

【国木田】

「ということって。伝えたからね、泉くんっ。恥ずかしいから残りは家でじっくり読んでね」

KU_0694

【国木田】

「私はちょっぴり気合い入れ過ぎちゃったけど、ここまで長くしなくていいと思うから……」

スッと耳許に近づいて、囁く

■
7

KU_0695
【国木田】

「次は泉くんの番だよ？ 待ってるからね」

ひらりと距離を取る

■ 9と16の間

KU_0696

【国木田】

「締め切りはいつがいいかな？ あ、もちろん締め切りはあるよ。ないと絶対書かないから」

KU_0697

【国木田】

「大丈夫、無理なスケジュールにはしないから。そうだなあ……私の卒業まで……じゃ、遅すぎるよね」

KU_0698

【国木田】

「春休みまでに、でどうかな？ できそう？」

KU_0699

【国木田】

「頑張って、応援するから。もちろん協力だってさせてもらうし……まあ、内容が内容だけに、私に手伝ってとはいづらいだろうけどね」

KU_0700

【国木田】

「私だって、泉くに相談するの、すごく恥ずかしかったんだからね……もうっ」

KU_0701

【国木田】

「私も、いつもみたいにここで自分の原稿書いてるから。泉くんをひとりにほしくないよ」

KU_0702

【国木田】

「ここで……泉くと私、向かい合わせになって、キーボードを叩いて……そういう時間が、心地よくて、楽しいから……」

KU_0703
【国木田】

「だから、泉くん……」
「ここで少し口ごもる国木田さん。いつまでもずっとこのままではいられない、という感情。」

■
8

泉くんの右頬に軽くキス

KU_0704
【国木田】

「ちゅっ」

KU_0705
【国木田】

「今はまだ、言葉に出来ないみたい。だから、これで」

KU_0706
【国木田】

「いつかちゃんと……伝えるから……ね、泉くん」

■
1

KU_0707
【国木田】

「これからも……引き続きよろしくお願いします。小説でも、小説以外でもねっ」